

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
声楽実技研究Ⅰ	常森 寿子・桑原 理恵 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	前期	※				B D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
歌唱の基本である身体の使い方や呼吸法を理解し、豊かな響きのある声で各自に応じた楽曲が演奏できる。*実技試験は3分以上5分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
授業の概要	1	レッスンの概要説明 歌う姿勢・マナーの指導	シラバスを読み授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲2（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	2	各自課題曲1（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	10	各自課題曲3（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	3	各自課題曲1（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	11	各自課題曲3（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	4	各自課題曲1（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲3（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する		
歌唱を主な題材として歌唱の基本である身体の使い方、呼吸法を学びながら豊かな母音の響きのポジションを探る。	5	各自課題曲1（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲3（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	6	各自課題曲2（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	14	実技試験に向けたまとめ1（歌詞や内容の理解・作品考察）	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる		
	7	各自課題曲2（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	15	実技試験に向けたまとめ2（伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる）	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる		
	8	各自課題曲2（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
声楽実技研究Ⅱ	常森 寿子・桑原 理恵 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	後期	※				B D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
歌唱の基本である身体の使い方や呼吸法を身につけ、正確な発音と豊かな響きのある声で各自に応じた楽曲が演奏できる。*実技試験は3分以上5分以内の演奏。曲数、楽曲の種類は問わない。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
授業の概要	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲5（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	2	各自課題曲4（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	10	各自課題曲6（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	3	各自課題曲4（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	11	各自課題曲6（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する		
	4	各自課題曲4（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲6（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する		
声楽実技研究Ⅰにひきつづき、歌曲を主な題材として歌唱の基本である身体の使い方、呼吸法を学びながらディクショントと歌唱法のつながりを学ぶ。	5	各自課題曲4（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲6（仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する		
	6	各自課題曲5（発声法・呼吸法）	発声、息の流れに留意した歌唱練習をする	発声を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する	14	実技試験に向けたまとめ1（歌詞や内容の理解・作品考察）	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる		
	7	各自課題曲5（発音・言葉と旋律）	発音練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する	15	実技試験に向けたまとめ2（伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる）	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる		
	8	各自課題曲5（歌詞の意味と表現）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修					
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
器楽実技研究Ⅰ（ピアノ）	松崎 伶子・川口 みさき 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				A B D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽曲の様式を理解しながら、確かな技術と表現力を養うことを目的とする。専門的な知識、態度を兼ね備えられる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の学習計画を立てる。ピアノの基礎であるスケールを全調マスターする。	レッスンまでに1曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める	9	バロックの作品を学ぶ③ 奏法を中心に学修する	多声音楽について調べる	各声部の弾き分け		
	2	基礎技能の訓練① スケールとアルペジオ全調をマスターする。	スケール・アルペジオの訓練	不得意な調の克服	10	前期課題曲へのアプローチ法を探る	各自の課題曲を練習	読譜の徹底		
	3	基礎技能の訓練② エチュード（クラマー・ビュロー、ツェルニー50番等）進度に合った楽曲を選ぶ	練習曲集の中から選択して弾いてみる	曲目を決定後、練習する	11	課題曲を学ぶ① 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の時代様式を調べる	指示された事柄について練習を進める		
	4	エチュードの作品を学ぶ① 奏法を中心に行う	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める	12	課題曲を学ぶ② 試験曲の形式・和声を中心に学修する	曲の形式を調べる	形式に基づいた練習		
授業の概要	5	エチュードの作品を学ぶ② 打鍵法と運指法を中心に学ぶ	楽譜の指使いを中心に学ぶ	正しい運指を身に着ける	13	課題曲を学ぶ③ 強弱法・奏法を中心に学修する	音の強弱に注目して練習する	強弱法に基づいた練習		
基礎的な技術の確立と向上をはかりながら、エチュード及びバロックの作品を修得する。 ・エチュード（クラマー・ビュロー クレメンティ、ツェルニー50番、モシュコフスキー等） ・J.Sバッハ（インヴェンション・シンフォニア・平均律等）	6	エチュードの作品を学ぶ③ 和声を中心に楽曲分析	自分で分析してレッスンに臨む	和声感を身に着ける	14	課題曲の完成度を高める① 発表のための奏法の完成	奏法を学ぶ	指示された事柄について練習を進める		
	7	バロックの作品を学ぶ① バロック音楽の作曲技法、構成を研究し技術の向上をはかる	バロック音楽について調べる	バロック音楽の時代背景を学ぶ	15	課題曲の完成度を高める② 発表のための表現法・強弱・音色の完成	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
	8	バロックの作品を学ぶ② 時代背景・様式を中心に学修する	バロック様式の特徴を調べる	バロック音楽の時代様式を学ぶ	備考 ※ピアノコース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が、推薦・指定する楽譜、各個人に合わせた楽曲を選択する			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験は複数の教員で採点する	100%	課題曲の完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
器楽実技研究Ⅱ（ピアノ）	松崎 伶子・川口 みさき 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				A B D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽曲の様式を理解しながら、深い内容と確かな技術および表現力を養うことを目標とする。技能と知識、態度を兼ね備えられている。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	学習計画を立てる	レッスンまでに1曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める	9	課題曲を分析する③ 奏法・音色を中心に学修する	運指および奏法の子習	奏法の掘り下げ		
	2	古典派の楽曲を学ぶ① 時代背景・様式を中心に学修する	古典派の音楽について調べる	古典派の時代背景を復習する	10	課題曲を分析する④ 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	読譜の徹底		
	3	古典派の楽曲を学ぶ② 形式・和声を中心に学修する	ソナタ形式を調べる	ソナタ形式を踏まえた練習	11	課題曲を分析する⑤ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音色作り	音色の追求		
	4	古典派の楽曲を学ぶ③ 奏法を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
授業の概要	5	課題曲の読譜① 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の時代背景を調べる	指示された事柄について練習を進める	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の調和		
古典派の作曲家の作品を習得する。ハイデン・モーツァルト・ベートーヴェン等のソナタを学ぶことにより、ソナタ形式を理解する。	6	課題曲の読譜② 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	ソナタ形式の分析	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める		
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	古典派の奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める		
	8	課題曲を分析する② 和声を中心に楽曲分析をする	和声を調べる	転調を意識して練習	備考 ※ピアノコース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験は複数の教員で採点し評価する	100%	課題曲の完成度			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽実技研究Ⅰ(管弦打)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				ADEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
基本的には演奏家を目指すことを前提とし、常に安定した演奏ができるように基礎となる土台を築き、高めていくことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション(前期計画の確認 他)	シラバスにて事前に確認	授業後にその学修内容の復習	9	エチュードおよびソロ曲③(エチュード課題後、ソロ曲の音楽表現法 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習		
	2	導入(基礎練習に対する準備と心構え)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	10	エチュードおよびソロ曲④(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習		
	3	呼吸法(正しい方法で基礎練習を行うための事前準備)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	11	エチュードおよびソロ曲⑤(エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習		
	4	基礎練習(ウォーミングアップの正しいやり方)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	12	エチュードおよびソロ曲⑥(エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習		
授業の概要										
1年次では、今後の演奏活動等に実践および応用していく上で最も重要な「基礎力」を特に重視する。しっかりと土台を構築していくための方法を教授していく内容とする。	5	エチュード課題の設定(各担当者が指定したエチュード)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①(粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせしておく	反省を基に伴奏合わせをする		
	6	実技試験用ソロ曲の選定	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②(ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする		
	7	エチュードおよびソロ曲①(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③(実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加した通し、ミスをした箇所を確認と対処法、更に音楽性自体も高める	反省を基に伴奏合わせをする		
	8	エチュードおよびソロ曲②(エチュード課題後、ソロ曲の難所への対処法 他)	研究および練習をする	授業後にその学修内容の復習	備考 ※管弦打実技コース必修					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					前期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽実技研究Ⅱ(管弦打)	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				ADEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
基本的には演奏家を目指すことを前提とし、常に安定した演奏ができるように基礎となる土台を築き、高めていくことができる。更に後期は前期で培ったものを活かし、レベルアップを目指すものとする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の反省と後期の展望について 他	前期の反省と後期の展望を考えておく	学修内容の確認と復習	9	エチュードおよびソロ曲⑦(エチュード課題後、ソロ曲の音楽表現法 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習	10	エチュードおよびソロ曲⑧(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	3	エチュードおよびソロ曲①(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習	11	エチュードおよびソロ曲⑨(エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
	4	エチュードおよびソロ曲②(エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	12	エチュードおよびソロ曲⑩(エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習		
授業の概要										
1年次では、今後の演奏活動等に実践および応用していく上で最も重要な「基礎力」を特に重視する。しっかりと土台を構築していくための方法を教授していく内容とする。後期はエチュードの内容が少しずつ難しくなってくるので、更なるレベルアップを図る。	5	エチュードおよびソロ曲③(エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①(粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせしておく	反省を基に伴奏合わせをする		
	6	エチュードおよびソロ曲④(エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②(ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする		
	7	エチュードおよびソロ曲⑤(エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③(実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加した通し、ミスをした箇所を確認と対処法、更に音楽性自体も高める	実技試験の総括と反省		
	8	エチュードおよびソロ曲⑥(エチュード課題後、ソロ曲の難所への対処法 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習	備考 ※管弦打実技コース必修					
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					後期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
創作応用演習Ⅰ(作曲)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				A B D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
作曲・編曲の全般に必要な知識と技術を習得し、幅広いジャンルの音楽を経験する。作曲と編曲を実践し、創作を通じて自己表現を行う基礎を理解する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 学修内容の説明。課題の目標と取り組み方について。創作、和声、コード、コード進行法、鑑賞	自作品の創作、シラバスの熟読	課題の練習、演習、鑑賞	9	コーラルのアナリゼと初見演奏について②	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習		
	2	和音とコードネーム①(音名、和音名、音階、コードネーム)	課題実習、鑑賞(レポート作成)	課題復習	10	モチーフ作曲(ピアノ曲2部形式)	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習		
	3	和音とコードネーム②(コード、和音の機能)	課題実習、鑑賞(レポート作成)	課題復習	11	モチーフ作曲(ピアノ曲3部形式)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習		
	4	コード進行・和声実習①(3和音)	課題実習、鑑賞(レポート作成)	課題復習	12	自作曲のレッスンと記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習		
授業の概要	5	コード進行・和声実習②(3和音)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習	13	自作曲のレッスンと記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習		
1.和声学a(和声実習)／2.和声学b(コーラル分析・演奏)／3.コード進行(クラシックだけでなくポピュラーの楽曲のコード進行を分析)／4.鑑賞(週3曲以上の楽曲を鑑賞・レポートを作成する)／5.モチーフ作曲(授業毎の2～4小節の課題を器楽曲にまとめる)／6.即興演奏法／7.作曲実習／8.楽曲アナリゼ	6	コード進行・和声実習①(副3和音)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習	14	自作曲のレッスンと記譜について③ 楽譜の仕上げと演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習		
	7	コード進行・和声実習②(副3和音)	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習	15	創作応用演習Ⅰのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題演習		
	8	コーラルのアナリゼと初見演奏について①	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習						
教科書・テキスト等	和声Ⅰ理論と実習(音楽之友社),新総合音楽講座5コード進行法(ヤマハ)(ヤマハ),コーラル名曲集(全音)(全音楽譜出版社),エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1・2(ヤマハ)(ヤマハ)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					定期試験	80%	筆記試験、実技試験、作品提出			
					課題/レポート	10%	鑑賞レポート(週3曲以上)			
					平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
創作応用演習Ⅱ(作曲)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				A B D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
作曲・編曲の全般に必要な知識と技術を習得し、幅広いジャンルの音楽を経験する。作曲と編曲を実践し、創作を通じて自己表現を行う基礎を理解する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	創作応用演習Ⅱの学修課題内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の創作、創作応用演習Ⅰ全般の復習	課題の練習、演習、鑑賞	9	コード進行(経過和音・□aug)・和声実習(ドミナントの総括)①	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習		
	2	コード進行・和声実習(創作応用Ⅰの復習)	課題実習、鑑賞(レポート作成)	課題復習	10	コード進行(経過和音・□dim)・和声実習(ドミナントの総括)②	課題実習・鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習		
	3	コード進行(副属7)・和声実習(属7→Ⅰ)①	課題実習、鑑賞(レポート作成)	課題復習	11	コード進行(経過和音・□m)・和声実習(ドミナントの総括)③	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習		
	4	コード進行(副属7)・和声実習(属7→Ⅵ)②	課題実習、鑑賞(レポート作成)	課題復習	12	自作曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習		
授業の概要	5	コード進行(副属7)・和声実習(属9長調・短調)①	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習	13	自作曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習		
1.和声学a(和声実習)／2.和声学b(コーラル分析・演奏)／3.コード進行(クラシックだけでなくポピュラーの楽曲のコード進行を分析)／4.鑑賞(週3曲以上の楽曲を鑑賞・レポートを作成する)／5.モチーフ作曲(授業毎の2～4小節の課題を器楽曲にまとめる)／6.即興演奏法／7.作曲実習／8.楽曲アナリゼ	6	コード進行(副属7)・和声実習(属9根音省略形)②	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習	14	自作曲のレッスン、記譜について③ 楽譜の仕上げと演奏によるまとめ	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習		
	7	ファンファーレについて(既成曲の分析) スコアとパート譜、移調楽器について	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習	15	創作応用演習Ⅱのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題演習		
	8	ファンファーレ制作	課題実習、鑑賞(レポート作成)、楽曲アナリゼ	課題復習						
教科書・テキスト等	和声Ⅰ理論と実習(音楽之友社),新総合音楽講座5コード進行法(ヤマハ)(ヤマハ),コーラル名曲集(全音)(全音楽譜出版社),エレクトーンメロディーズベストセレクションVOL1・2(ヤマハ)(ヤマハ)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					定期試験	80%	筆記試験、実技試験、作品提出			
					課題/レポート	10%	鑑賞レポート(週3曲以上)			
					平常点	10%	積極的な作品発表等の取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
創作応用演習Ⅰ (電子キーボード)	出田 敬三・中村 真貴 他	複数	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
クラシックオルガンの技術と音楽性の習得。 現代のニーズにあった電子オルガン感覚を身に付ける。 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
授業の概要 専攻実技の基本的な奏法について楽曲を通して学び発展させる。 ラインハルト、テクニク、即興、モチーフ、ポピュラーからクラシック、オリジナル、既成の曲、編曲、楽器の機能、レジスト、リズムと内容が多岐にわたる。	1	オリエンテーション 前期の授業計画 各学生の目標・課題 基礎知識の確認	シラバスに目を通す	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	9	ラインハルト曲3 (分析) パイプオルガンの演奏 試験曲・HMFの曲 即興 (重音奏法)、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	2	ラインハルト曲1 (レガート奏法) 自由曲、即興 (イントロ)、モチーフ (曲の形式)、テクニク (ハノン)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	10	ラインハルト曲4 (読譜) パイプオルガンの演奏、試験曲・HMFの曲 即興 (ブロック奏法)、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	3	ラインハルト曲1 (親指のグリッサンドレガート奏法) 自由曲、即興 (エンディング)、モチーフ (曲の形式)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	11	ラインハルト曲4 (レジスト) パイプオルガンの演奏 試験曲・HMFの曲、即興、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	4	ラインハルト曲1 (各指のグリッサンドレガート奏法)、自由曲、即興 (カウンターメロディー) モチーフ (曲の形式)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	12	ラインハルト曲4 (分析) パイプオルガンの演奏 試験曲・HMFの曲 即興 (ブロック奏法)、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	5	ラインハルト曲2 (読譜)、自由曲、即興、モチーフ (曲の形式)、スケール (全調)、コード、カデンツの確認	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	13	ラインハルト曲5 (読譜) パイプオルガンの演奏 試験曲・HMFの曲 即興 (ブロック奏法)、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	6	ラインハルト曲2 (レジスト)、自由曲、試験曲・HMF (Heisei Music Festival)の選曲 即興 (重音奏法)、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	14	ラインハルト曲5 (レジスト) パイプオルガンの演奏、試験曲・HMFの曲 即興 (ブロック奏法)、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	7	ラインハルト曲2 (分析) 試験曲・HMFの曲、試験曲の分析 即興 (重音奏法)、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	15	ラインハルト曲5 (分析) パイプオルガンの演奏、試験曲・HMFの曲 即興 (ブロック奏法)、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	8	ラインハルト曲3 (読譜、レジスト)、試験曲・HMFの曲 試験曲のレジスト 即興 (重音奏法)、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く						
教科書・テキスト等	ラインハルトオルガン教本50番 (音楽之友社)、新総合音楽講座5「コード進行法」(ヤマハミュージックメディア)、エレクトーンメロディーズベストセレクションVol.1 (改訂版)(ヤマハミュージックメディア)			成績評価基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVol.2 (ヤマハミュージックメディア)				実技試験	80%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ			
					課題 / レポート	10%	課題を習得・練習			
					平常点 (態度) 演奏活動	10%	授業中の指示に対する、正しい練習			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
創作応用演習Ⅱ (電子キーボード)	出田 敬三・中村 真貴 他	複数	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				ABCDEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
クラシックオルガンの技術と音楽性の習得。 現代のニーズにあった電子オルガン感覚を身に付ける。 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
授業の概要 専攻実技の基本的な奏法について楽曲を通して学び発展させる。 ラインハルト、テクニク、即興、モチーフ、ポピュラーからクラシック、オリジナル、既成の曲、編曲、楽器の機能、レジスト、リズムと内容が多岐にわたる。	1	オリエンテーション 後期の授業計画 各学生の目標・課題 基礎知識の確認	シラバスに目を通す	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	9	ラインハルト 曲2 (レジスト) パイプオルガンの演奏 (トゥ&ヒール奏法) 自由曲、試験曲、即興、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	2	ラインハルト 曲2 (3度の重音奏法) 自由曲、即興 (イントロ、エンディング) モチーフ、テクニク (ハノン)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	10	ラインハルト 曲2 (分析) パイプオルガンの演奏 (トゥ&ヒール奏法) 自由曲、試験曲、即興、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	3	ラインハルト 曲3 (6度の重音奏法) 自由曲、即興 (イントロ、エンディング) モチーフ、テクニク (ハノン)	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	11	ラインハルト 曲3 (読譜) パイプオルガンの演奏 自由曲、試験曲、即興、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	4	ラインハルト (各指のグリッサンドレガート奏法) 自由曲、即興 (イントロ、エンディング)、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	12	ラインハルト 曲3 (レジスト) パイプオルガンの演奏 自由曲、試験曲、即興、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	5	ラインハルト 曲1 (読譜) 自由曲、即興、モチーフ スケール (全調)、コードの確認	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	13	ラインハルト 曲3 (分析) パイプオルガンの演奏 自由曲、試験曲、即興、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	6	ラインハルト 曲1 (レジスト) 自由曲 試験曲の選定、即興、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	14	ラインハルト 曲4 (読譜、レジスト) パイプオルガンの演奏 自由曲、試験曲、即興、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	7	ラインハルト 曲1 (分析) 自由曲 試験曲の分析、即興、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	15	ラインハルト 曲4 (分析) パイプオルガンの演奏 自由曲、試験曲、即興、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く		
	8	ラインハルト 曲2 (読譜) 自由曲 試験曲のレジスト、即興、モチーフ	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く	課題の習得・練習 多くの音楽を聴く						
教科書・テキスト等	ラインハルトオルガン教本50番 (音楽之友社)、新総合音楽講座5「コード進行法」(ヤマハミュージックメディア)、エレクトーンメロディーズベストセレクションVol.1 (改訂版)(ヤマハミュージックメディア)			成績評価基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	エレクトーンメロディーズベストセレクションVol.2 (ヤマハミュージックメディア)				実技試験	10%	課題曲、自由曲、即興、モチーフ			
					課題 / レポート	10%	課題を習得・練習			
					平常点 (態度) 演奏活動	80%	授業中の指示に対する、正しい練習			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
創作応用演習Ⅰ (ミュージックパフォーマンス)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける。 II 現代のニーズにあった演奏感覚を身につける。 III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 課題・試験曲 選曲	入学前の課題	課題①練習・ 基礎練習	9	課題③への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題③アナリー ゼ	課題③練習・ 基礎練習		
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景に ついて	課題①練習・ 基礎練習	10	課題③への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現(音響・ サウンド)について 課題③のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・ 基礎練習		
	3	課題①への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現につ いて	課題①アナ リーゼ	課題①練習・ 基礎練習	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼ と作曲家等につ いて	試験曲練習・ 基礎練習		
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現につ いて 課題①のまとめ	課題①のまと め	課題②練習・ 基礎練習	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ (構成)につい て	試験曲練習・ 基礎練習		
授業の概要	5	課題②への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現につ いて	課題②背景に ついて	課題②練習・ 基礎練習	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイ ナミクス)について	アーティキュ レーション、ダ イナミクス)に ついて	試験曲練習・ 基礎練習		
	6	課題②への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現につ いて	課題②アナ リーゼ	課題②練習・ 基礎練習	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サ ウンド)につい て	試験曲練習・ 基礎練習		
	7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現につ いて 課題②のまとめ	課題②のまと め	課題③練習・ 基礎練習	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・ 提出楽譜準備	試験曲練習・ 基礎練習	創作応用演習 Ⅰのまとめ Ⅱの準備	
	8	課題③への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現につ いて	課題③背景に ついて	課題③練習・ 基礎練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース必修					
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。			成 績 評 価 基 準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
			実技試験		80%	専門実技の習熟度 自己表現力				
			平常点		10%	事前・事後学習への取り組み				
参考書・参考資料等				平常点	10%	演奏活動、行事への参加				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
創作応用演習Ⅱ (ミュージックパフォーマンス)	出田 敬三 他	複数	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける。 II 現代のニーズにあった演奏感覚を身につける。 III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 課題・試験曲 選曲	創作応用演習 Ⅱの課題曲選 曲	課題①練習・ 基礎練習	9	課題③への取り組み②分析(アナリー ゼ)と演奏表現について	課題③アナリー ゼ	課題③練習・ 基礎練習		
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景に ついて	課題①練習・ 基礎練習	10	課題③への取り組み③フレーズ、ダイ ナミクスと表現(音響・サウンド)につ いて 課題③のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・ 基礎練習		
	3	課題①への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現につ いて	課題①アナ リーゼ	課題①練習・ 基礎練習	11	後期試験への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼ と作曲家等につ いて	試験曲練習・ 基礎練習		
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現につ いて 課題①のまとめ	課題①のまと め	課題②練習・ 基礎練習	12	後期試験への取り組み② 楽曲アナリーゼと構成について	楽曲アナリーゼ (構成)につい て	試験曲練習・ 基礎練習		
授業の概要	5	課題②への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現につ いて	課題②背景に ついて	課題②練習・ 基礎練習	13	後期試験への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイ ナミクス)について	アーティキュ レーション、ダ イナミクス)に ついて	試験曲練習・ 基礎練習		
	6	課題②への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現につ いて	課題②アナ リーゼ	課題②練習・ 基礎練習	14	後期試験への取り組み④ 表現表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サ ウンド)につい て	試験曲練習・ 基礎練習		
	7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現につ いて 課題②のまとめ	課題②のまと め	課題③練習・ 基礎練習	15	後期試験への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・ 提出楽譜準備	試験曲練習・ 基礎練習	創作応用演習 Ⅱのまとめ Ⅲの準備	
	8	課題③への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現につ いて	課題③背景に ついて	課題③練習・ 基礎練習	備考 ※ミュージックパフォーマンスコース必修					
教科書・テキスト等	個々の専攻実技により、適宜選択する。			成 績 評 価 基 準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
			実技試験		80%	専門実技の習熟度 自己表現力				
			平常点		10%	事前・事後学習への取り組み				
参考書・参考資料等				平常点	10%	演奏活動、行事への参加				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
サウンドデザインⅠ	出田 敬三・脇山 純 古山 俊一・西田 和政 他	複数	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
「良い音楽」を注意深く聴き、その音楽を再現出来るようになる。色々なポイントから「聴く」ことを学ぶ。実際のコンサート等のイベントで機材の設置から、音響チェック、リハーサル、本番、後片付けをスタッフとして担当できる能力を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 「音」とは DTMからDAWへ 色々な録音、ミキシング	入学前の課題 シラバスを読んでおくこと	授業で行った 操作を何度も 繰り返す	9	音響（3） 実習 その1（機材を使って音を出そう）	前回までの音響 の授業内容を復 習	機材の接続を 繰り返して練習		
	2	ドラムの録音、ドラム譜 Velocity, Edit, Quantize (いろいろな画面でのEdit)	操作に慣れる ドラムの入った 演奏を聞いて おく	ドラム譜とドラ ムの入力に 慣れる	10	ミキシング ミキサー、AUX, Pre, Post, Group, オート メーション	ミキサーの機能 を調べておく	ミキサーを有 効に使えるよ うに復習		
	3	音響（1）音楽の表舞台、裏舞台 （音響について、内容・職業全般について）	音響学、物理 学的な「音」 について、調 べておく	授業で話され た内容をまと める 8の字巻きを習	11	テンポ Tempo Change	テンポの揺れる 曲を3曲聞いてお くこと	いろいろなテ ンポの変化を させる方法を 習得		
	4	キーボードの録音 Pedal, PitchBend, Modulation	キーボードの 楽譜を準備し ておく	授業の操作に 慣れる	12	音響（4） 実習 その2（心地よい音量、音質を 作ってみよう）	前回までの音響 の授業内容を復 習	ミキサー、エ フェクト、ゲ イン、モニ ターなどに慣		
授業の概要										
DTM・DAWの知識と実践。 様々な楽器についての知識と奏法の理解。 コンピュータを介して「音楽」の理解を深める。 音響の基本を知り、PAなどの実践を体験する。	5	ギターの録音 TAB譜の読み方 試験曲準備 クラシックピアノ作 品・自由曲	ギターの楽譜 を準備 試験曲を準備	機材の接続 （ギター）・ 録音の復習 試験曲作成開	13	Youtube 機材、ソフト（OBS）、準備、配信、録画	ライブストリー ミング配信につ いて調べておく	リアルタイム の配信の練習		
	6	音響（2）音を伝える （建物の構造による音の違い、基本的な音響機材の説明とノウハウ）	空間系のエ フェクトにつ いて調べてお く	音響機材に触 れて慣れる	14	LOGICでの楽譜 試験曲の楽譜提出 異名同音、臨時記号などのミスをチェック	試験曲の仕上げ 試験曲の楽譜を 準備しておく	授業で指摘さ れた楽譜の修 正 試験曲の修正		
	7	ヴォーカルの録音 録音の音質、マイクロフォンの種 類、Effect	ヴォーカルの 楽譜の準備	機材の接続 （マイク）・ 録音の復習	15	まとめ 試験曲の音源準備	曲を仕上げる、 パワンス直前 の状態データ を持参	曲をパワンス して提出		
	8	MIDI 2進法、16進法、Control、SMF RPN, NRPN, Exclusive	MIDIについて 調べておく	MIDIの知識を 復習	備考 ※サウンドデザインコース必修					
教科書・テキスト等	担当教員が適宜指示、配付			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					実技試験	80%	課題曲、自由曲			
					課題/楽譜	10%	課題の習得・練習			
参考書・参考資料等					平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する正しい打ち込み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
サウンドデザインⅡ	出田 敬三・脇山 純 古山 俊一・西田 和政 他	複数	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
「良い音楽」を注意深く聴き、その音楽を再現出来るようになる。色々なポイントから「聴く」ことを学ぶ。実際のコンサート等のイベントで機材の設置から、音響チェック、リハーサル、本番、後片付けをスタッフとして担当できる能力を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 前期の復習・確認 色々な録音、ミキシング	課題のデータ 作成	操作を何度も 繰り返して操 作のスピード アップを図る	9	音響（3） 「サウンドをデザインす る」③ベーターヴェンホールでの実践 ハウリング対策	前回までの音響 の授業内容を復 習	機材の接続を 繰り返して練習		
	2	短時間で作品制作 時間をかける作業も大事だが、短時 間でまとめる力も必要	初級レベルの 曲を5曲準備	授業中に仕上 がらなかった データ作成を 続ける	10	M I D I の知識再確認 感覚的に修正できるが、データを数値化 することで客観的に理解する	イベントリスト を見て慣れてお く	数値入力に慣 れる 数字の意味を 理解		
	3	シンセサイザーの基礎 アナログシンセサイザー VCO, VCF, VCA, EG (ADSR) などの基本	LOGICのソフト 音源を種類別 に比較して聴 く	様々なソフト 音源で自分の 好みにEditす る	11	パワンス（オーディオファイルの種類） 2ミックス CDでのバックアップ	パワンスにつ いて調べておく	WAVE, MP3など で保存 CD作成		
授業の概要										
DTM・DAWの知識と実践。 様々な楽器についての知識と奏法の理解。 コンピュータを介して「音楽」の理解を深める。 音響の基本を知り、PAなどの実践を体験する。	4	音響（1） サウンドをデザインす る」① サウンドデザインスタジオで音響機 器を接続、操作してよい音を出す	機器の接続、 名称、操作、 操作してよい音を出す	実習で学んだ ことを素早く 再現できるよ うにする	12	音響（4） 「サウンドをデザイン する」④実技試験の機材、セッティング モニター	前回までの音響 の授業内容を復 習	ミキサー、エ フェクト、ゲ イン、モニ ターなどに慣		
	5	ソフト音源、ビンテージキーボード 多くのパラメーター、オプションの 理解	パラメーター を変えて音の EDITに慣れて おく	ソフト音源で 曲のイメージ にふさわしい 音にEdit	13	様々な音楽ソフト LOGIC以外の音楽ソフトとその特徴	スマートフォ ンのアプリなど も試しておく	有料、無料の アプリを試す		
	6	プラグインエフェクタ 音にエフェクトをかけることで曲が より魅力的になる	エフェクトを 大きく分けて それぞれの働 きを調べる	授業で触つ ていないエフェ クトを使ってみ る	14	まとめ 試験曲の楽譜を仕上げる	試験曲の楽譜を 準備しておく	授業で指摘さ れた楽譜の修 正と仕上げ		
	7	音響（2）「サウンドをデザインす る」② ミュージックパークで音響機器を接 続、操作してよい音を出す	機器の接続、 名称、操作、 操作してよい音を出す	実習で学んだ ことを素早く 再現できるよ うにする	15	総括 試験曲の準備	パワンス直前 の状態データも もってくる	曲を仕上げ、 パワンスして 提出		
	8	外部音源（INTEGRA7） 接続 初めての外部音源 ソフト音源との操作の違いを学ぶ	INTEGRA7のマ ニュアルを読 んでおく	接続、録音方 法に慣れてお く	備考 ※サウンドデザインコース必修					
教科書・テキスト等	担当教員が適宜指示、配付			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					実技試験	80%	課題曲、自由曲			
					課題/楽譜	10%	課題の習得・練習			
参考書・参考資料等					平常点(態度)演奏活動	10%	授業中の指示に対する正しい打ち込み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽教育演習Ⅰ	岩山 恵美子	単独	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修				ADE
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
音楽教育現場における教育活動実践のための基礎的能力を養う。 歌唱指導の実演・模擬指導や簡易伴奏づくりを通して、歌唱指導についての基礎的な知識や技能を習得するとともに、音楽の諸要素についての理解を深める。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション ・演習内容と学修の進め方 ・事前課題の発表	事前課題をまとめ、発表準備と練習をする	シラバス、学生便覧を熟読する	9	模擬指導と指導についての討議	発声練習のさせ方や伴奏を練習しておく	意見交換の内容をまとめる		
	2	歌唱指導の意義 ・学習指導要領の内容と学年系統	歌唱の指導事項を読んでおく	学年系統を一覧にまとめる	10	歌唱指導における伴奏の工夫	課題曲を歌い、伴奏を練習しておく	「今日の学び」をまとめる		
	3	歌唱指導の意義 ・求める声 ・模範演奏の分析	おぼめの歌声を探し、そのよさをまとめておく	中学生の演奏を聴き、声についての気づきをまとめる	11	和声とコード	いろいろな和音の構成について調べておく	カデンツを全調で弾けるように練習する		
	4	発声のメカニズムと変声期の指導	自分の声の成長・変化をまとめておく	変声期の指導の留意点をまとめる	12	根音楽・和音伴奏の工夫	コード奏になれるように練習しておく	課題曲の根音楽、和音伴奏をつくる		
	5	発声指導のポイントと声のトラブル対処法	発声上のトラブルについて調べておく	発声トラブルの対処法をまとめる	13	伴奏づくり ・選択した歌唱教材にあった簡易伴奏	自作の根音楽、和音伴奏を弾けるように練習しておく	指導場面に応じた伴奏をつくる		
	6	目標をもった発声指導	発声練習の経験をもとめておく	発声指導のポイントをまとめる	14	ノーテーション ・自作の伴奏をパソコンを使って記譜	自作の伴奏を確かめておく	記譜を完成させる		
	7	課題（教科書教材）の選択と指導構想	教科書の歌唱教材を歌っておく	選んだ教材曲を歌詞や階名で歌えるように練習しておく	15	弾き歌いと歌唱指導 ・自作の伴奏を弾きながら、範唱し、歌唱指導をする	自作の伴奏を練習しておく	歌唱指導について自分の考えをまとめる		
8	学習活動と支援の工夫	楽曲との出合わせ方を考えておく	学習活動の流れをまとめる							
教科書・テキスト等	中学校学習指導要領解説音楽（平成29年）（教育芸術社）、中学生の音楽1、中学生の音楽2・3上、中学生の音楽2・3下（教育芸術社）			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等					レポート	50%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え			
					作品・演奏	30%	内容の深さ、演奏の正確さ			
					毎時間の振り返り	20%	内容についての理解、自分なりの考え			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽教育演習Ⅱ	岩山 恵美子	単独	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修				ADE
授業のテーマ及び到達目標	授業計画									
音楽教育現場での教育活動実践のための基礎的能力を養う。 器楽指導の意義を読み解くことを通して、求められる授業のあり方を理解することができる。 器楽教材曲をアレンジすることを通して、読譜力や楽器演奏の基礎的な技能を高めるとともに教材開発について理解を深める。 個に応じた指導について、テーマに沿った討議を通して、自分の考えをまとめる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	器楽指導の意義 ・現行学習指導要領と改訂との比較	器楽の指導事項を読んでおく	表現領域の新旧の内容を一覧表に整理	9	アレンジ作品の発表（演奏）と意見交換	工夫点をまとめておく	気づきをもとに修正する		
	2	器楽指導の意義 ・指導内容と学年系統	配付資料を読んでおく	学年系統を一覧にまとめる	10	ノーテーション ・アレンジ作品をパソコンを使って記譜	楽譜（手書き）を完成させておく	総譜のスタイルで記譜を完成させる		
	3	アルトリコーダーの基礎的な奏法 ・呼吸、タンギング、指使い	ソプラノリコーダーの運指を確認しておく	アルトリコーダーの運指を練習する	11	ノーテーション ・音色、調、速度の工夫	音域、音色の組み合わせについて複数案を考えておく	器楽指導について自分の考えをまとめる		
	4	リコーダー・アンサンブル ・音色、フレーズ	アルトリコーダーの運指を確認しておく	全パートをリコーダーで演奏できるように練習する	12	個に応じた指導のあり方（討議） テーマ 「なぜ、個に応じた指導が必要か」	個に応じた指導の必要性を自分なりにまとめる	意見交換をもとに自分の考えを見直し、まとめる		
	5	リコーダー・アンサンブル ・バランス ・テノール・リコーダー バス・リコーダー	各パートを演奏できるか確かめる	アンサンブルの練習をする	13	個に応じた指導のあり方（討議） テーマ 「生徒の実態把握」	授業前に生徒の何が分かっているかよくまとめる	実態把握の必要性と方法についてまとめる		
	6	器楽教材の工夫 ・不得意感を抱いている生徒への配慮と支援	音楽嫌いの原因について考え、まとめておく	不得意な生徒のためのパートをつくる	14	個に応じた指導のあり方（討議） テーマ 「意欲を引き出す工夫」	意欲をもって学習に取り組んだ経験をまとめておく	意欲を引き出す教師の関わりをまとめる		
	7	器楽教材の工夫 ・技能が高い生徒への配慮と支援	つくったパートを演奏できるようにしておく	技能の高い生徒のためのパートをつくる	15	個に応じた指導のあり方（討議） テーマ 「居場所のある授業づくり」	「居場所がある」とはどういうことか考えまとめておく	個に応じた指導のあり方についてまとめる		
8	アンサンブルアレンジ	つくったパートを演奏できるようにしておく	アンサンブルの練習をする							
教科書・テキスト等	(教育芸術社)、中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社)、中学生の器楽(教育芸術社)			成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント			
参考書・参考資料等					レポート	50%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え			
					作品・演奏	30%	内容の深さ、演奏の正確さ			
					毎時間の振り返り	20%	内容の理解度、自分なりの考え			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽療法演習Ⅰ	村橋 和子・青 拓美	オムニバス	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修			必修	ADE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
発達障害の諸理論についてまとめる課題曲の練習 各論では学生が音楽を媒体として高齢者を支える意味を多角的・理論的に説明できることを目的とする。 また技法においては、高齢者の心身の健康及び疾病や障がい、加齢に伴う認知機能の変化に対して有効に働きかけるための臨床的音楽技法を身につけることを目的とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 授業の進め方、レジュメ作成について理解する 課題発表	シラバスの熟読	課題曲の練習	9	・認知症について理解する ・高齢者領域での楽曲(昭和戦前の背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	認知症についてまとめる 課題曲の練習		
	2	・ヒトの発達について ・臨床場面での伴奏法(コードについて)	プリントの熟読、用語の理解	発達についてまとめる 課題曲の練習	10	・認知症と音楽療法との関連を探る ・高齢者領域での楽曲(戦後の背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	認知症と音楽にまとめる 課題曲の練習		
	3	・様々な発達論 ・臨床場面での伴奏法(課題曲のコード奏)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	発達諸理論についてまとめる 課題曲の練習	11	・ADLとQOLについて理解する ・高齢者領域での楽曲(昭和30年以降の背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	ADLとQOLについてまとめる 課題曲の練習		
	4	・発達と音楽療法との関連を探る ・臨床場面での伴奏法(高齢者で使用する楽曲の理解)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	発達と音楽療法についてまとめる 課題曲の練習	12	・回想法を理解し、音楽療法との関連を考える ・高齢者領域での楽曲(平成の背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	回想法についてまとめる 課題曲の練習		
授業の概要	5	・加齢に伴う変化を理解する ・臨床場面での伴奏法(童謡・唱歌)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	高齢期の障がいについてまとめる 課題曲の練習	13	・高齢者領域の事例研究 ・高齢者領域での楽曲(試験曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	事例についてまとめる 課題曲の練習		
高齢者領域に関する各論及び技法を扱う。各論の学習では、学生が作成するレジュメを基に、高齢者の心身の健康及び疾病や障がい、加齢に伴う認知機能の変化を把握する。 技法では臨床場面での音楽を模擬体験し、その奏法やレパートリーを学ぶ。	6	・高齢者の疾病・障がいと音楽療法との関連を探る ・臨床場面での伴奏法(アニメソング)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	高齢期の疾病についてまとめる 課題曲の練習	14	音楽療法における声の使い方(時期未定) *青拓美講師による特別講座	レジュメを熟読し、用語を調べる	レッスンで学んだことをまとめる		
	7	・脳の仕組み、その機能について理解する ・臨床場面での伴奏法(歌謡曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	脳の機能についてまとめる 課題曲の練習	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・夏休みの課題提示	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習		
	8	・脳機能障害について理解する ・高齢者領域での楽曲(大正時代までの背景)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	脳機能障害についてまとめる 課題曲の練習	備考 ※音楽療法コース必修 / 青拓美講師による特別講座については、オリエンテーションにて詳細を説明					
教科書・テキスト等	認知症のパーソンドケア(クリエイツかもがわ)、ころをつなぐミュージックセラビー(ミネルヴァ書房)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					期末試験	60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数			
					レジュメ作成と発表	30%	課題への取り組み、内容の充実			
参考書・参考資料等	音楽療法の手引き 音楽療法家のための(牧野出版)、音楽療法の実践 音楽療法家のための(牧野出版)				平常点(態度・行動観察)	10%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽療法演習Ⅱ	村橋 和子	単独	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修			必修	ADE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
Iに引き続き、音楽療法士が音楽を媒体として高齢者を支える意味を多角的・理論的に検討することを目的とする。 また技法においては集団に対して有効に働きかけるための臨床的音楽技法(コード奏による弾き歌い、初見力、を身につける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 授業の進め方、レジュメ作成について理解する 課題発表	シラバスの熟読	課題曲の練習	9	・高齢者の生きた時代と音楽史 ・弾き歌い(昭和60年代の曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	2	・エリクソン「ライフサイクル」概論 ・弾き歌い(明治時代の馴染みの曲)	プリントの熟読、用語の理解	課題のまとめ 課題曲の練習	10	・高齢者の生きた時代と音楽史 ・弾き歌い(童謡・唱歌)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	3	・アイデンティティーの確立について ・弾き歌い(大正時代の馴染みの曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	アイデンティティーまとめ 課題曲の練習	11	・臨床場面における弾き歌い ・即興体験	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
	4	・マズローの欲求段階説 ・弾き歌い(戦前昭和時代の曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	12	音楽療法の実践(時期未定) 高齢者施設でのセッション見学	セッションの準備	セッションの振り返り 課題曲の練習		
授業の概要	5	・自己実現・至高体験と音楽療法 ・弾き歌い(軍歌)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	13	・終末期医療と音楽療法 ・弾き歌い(平成時代の曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習		
各論では高齢者にとっての「人生の意味」「老いること」「死」などのテーマについて向き合い、探究し、ひとつの人格の中にそれらが統合される過程について考察する。また高齢者のADLやQOLの維持・向上を目的とした音楽療法的手段、査定、評価についても学ぶ。 技法では集団を中心としたワークを行う。	6	・パーソンセンタード・ケア ・弾き歌い(昭和30年代の曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	14	・グリーフ・ケアについて ・即興体験	レジュメを熟読し、用語を調べる	課題のまとめ 課題曲の練習		
	7	・パーソンセンタード・ケアと対人援助 ・弾き歌い(40年代の曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問)	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習		
	8	・来談者中心療法 ・弾き歌い(昭和50年代以降の曲)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習	備考 ※音楽療法コース必修					
教科書・テキスト等	認知症のパーソンセンタードケア(クリエイツかもがわ)、障害児の音楽療法 声・身体・コミュニケーション(春秋社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					期末試験	60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数			
					レジュメ作成と発表	30%	課題への取り組み、内容の充実			
参考書・参考資料等	音楽療法の手引き 音楽療法家のための(牧野出版)、音楽療法の実践 音楽療法家のための(牧野出版)				平常点(態度・行動観察)	10%	授業への集中、毎回のレポートの内容の充実			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ピアノⅠ	川口 みさき 他	クラス分け	1単位	音楽学科 1年次	前期	※	必修		選択必修	BCF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
バロック、古典派に重点を置き、曲にふさわしい奏法・様式感で演奏する力を身につける。各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の学修計画を立てる。ピアノの基礎であるスケール・練習曲等を選択する	シラバスを読み、授業内容を確認する	指示された事柄について練習を進める	9	課題曲の練習方法／バロック・古典派など奏法を中心に	テンポを守り練習する	研究した練習方法をまとめる		
	2	ピアノの基礎技術① スケールの運指法を学ぶ	運指に注意し練習する	長調を復習しておく	10	課題曲の構成① 奏法を中心に	音の粒をそろえて練習する	音の質をそろえて練習する		
	3	ピアノの基礎技術② 調と指使いのパターンを習得する	課題の調のスケールを練習する	短調を復習しておく	11	課題曲の構成② 強弱の付け方に注意して	楽譜に書かれた強弱をていねいに見直す	表現にメリハリを持たせるよう練習する		
	4	ピアノの基礎技術③ スケールおよび練習曲による指の独立	調子記号を覚える	長調・短調を続けて弾けるよう復習しておく	12	課題曲の構成③ 音色を中心に	楽曲にふさわしい音色で表現する	身体の使い方を復習する		
	5	ピアノの基礎技術④ カデンツを習得する	カデンツの指使いを覚える	カデンツ付きのスケールの復習	13	構成・表現の修得①全体の構成を考慮して	曲を暗譜で演奏できるようにする	暗譜が不確実な箇所を克服する		
	6	前期試験曲を決定し、現在の進度にあった楽曲を選択する	課題となる曲集を準備する	決定した曲の時代背景を調べる	14	構成・表現の修得②音色を中心に	暗譜で安定した演奏ができるようにする	技術、表現両方を確実に見直す。		
	7	課題曲の分析① バロック・古典派など時代背景を中心に	決定した曲を練習する	曲の背景にある様式等をまとめておく	15	構成・表現の完成。後期の課題決め	授業を振り返り総まとめをする	授業で学んだことをまとめる		
	8	課題曲の分析② バロック・古典派など形式を中心に	試験曲の形式を調べておく	曲の形式についてまとめておく	備考 ※声楽・管弦打楽・作曲・電子キーボード・音楽教育・音楽療法コース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験	100%	課題曲の完成度				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ピアノⅡ	川口 みさき 他	クラス分け	1単位	音楽学科 1年次	後期	※	必修		選択必修	BCF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	スケール・練習曲等を通して、前期に学んだことを振り返る	指示された課題を仕上げておく	指示された事柄について練習を進める	9	試験曲の分析・練習方法③（形式・和声の確立）	和声と表現を結びつけ練習する	ハーモニーと構成を考える		
	2	スケール・練習曲等を通して、レガート奏法・スタッカート奏法について学ぶ	レガート、スタッカートの奏法でスケールを準備する	タッチの多様性について復習しておく	10	試験曲の構成・表現の修得①（奏法を中心に）	曲に合った音色で練習する	思い通りの音色で表現できるよう工夫する		
	3	スケール・練習曲・ロマン派の小品等を通して、拍子感について学ぶ	拍子感を大切にして練習する	拍子感について復習する	11	試験曲の構成・表現の修得②（奏法の確立）	指・手首・腕等の使い方を考える	表現と奏法の関連性を考察する		
	4	スケール・練習曲・ロマン派の小品等を通して、演奏における姿勢、手の形について	姿勢に留意し練習する	指示された事柄について練習を進める	12	試験曲の構成・表現の修得③（強弱の付け方を中心に）	楽譜に指示された強弱記号を見直す	強弱を的確に解釈する		
	5	スケール・練習曲・ロマン派の小品等を通して、身体・腕の使い方について考察する	手首・腕の脱力を意識して練習する	指示された部分を修正する	13	試験曲の構成・表現の修得④（全体の構成を考慮し強弱を決定する）	流れの中で自然に表現できるように練習する	技術と表現の両立を図る		
	6	後期試験曲の決定、タッチについて	試験候補曲の練習をする	指の独立の重要性についてまとめておく	14	試験曲の構成・表現法等の完成①（音色を中心に）	曲に合った音色で練習する	声部間のバランスを見直す		
	7	試験曲の分析・練習方法①（時代背景・様式を中心に）	決定した曲について調べる	曲の背景をまとめる	15	試験曲の構成・表現法等の完成②（音色の確立）	暗譜で安定した演奏が出来るよう練習する	学びの総まとめをする		
	8	試験曲の分析・練習方法②（形式・和声を中心に）	ハーモニーに留意し練習する	曲の形式について考察する	備考 ※声楽・管弦打楽・作曲・電子キーボード・音楽教育・音楽療法コース必修					
教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				実技試験	100%	課題曲の完成度				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
声楽 I	常森 寿子・桑原 理恵 他	クラス分け	1 単位	音楽学科 1 年次	前期	必修	必修		選択必修	B E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
呼吸法や発声など声楽の基礎技術についての理解を深める。また、イタリア語の発音の仕方に慣れる。身体を解放して伸びやかな演奏ができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	イタリア歌曲を鑑賞する	9	各自課題曲 2 (歌詞の意味と表現)	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる		
	2	各自課題曲 1 (身体と声の関係)	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる	10	各自課題曲 3 (母音の響きと呼吸法)	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる		
	3	各自課題曲 1 (声の響き)	身体を解放することを意識して母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる	11	各自課題曲 3 (イタリア語の発音と発声)	スムーズな息の流れで歌唱できるように練習する	レッスン内容をまとめる		
	4	各自課題曲 1 (息の流れと身体の支え)	声の響きを意識して母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる	12	各自課題曲 3 (言葉と旋律の関係)	息の流れが止まることなく歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる		
授業の概要										
「歌う」ことの基礎となる呼吸、発声を練習曲、イタリア歌曲を通して学ぶ。またイタリア語の発音と古典の節度ある表現法を習得する。レッスンの曲に関しては担当教員の指導に従って決める。*試験曲はイタリア歌曲集 I、II より選曲する	5	各自課題曲 1 (発声と発音)	息の流れを意識してイタリア語で歌う練習をする	レッスン内容をまとめる	13	実技試験に向けたまとめ 1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する		
	6	各自課題曲 2 (母音の響き)	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる	14	実技試験に向けたまとめ 2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する		
	7	各自課題曲 2 (イタリア語の発音とリズム)	正しい発音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	15	実技試験に向けたまとめ 3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる		
	8	各自課題曲 2 (イタリア語の響き)	響きのある母音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	備考 ※教職課程必修(声楽コースを除く) ※サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスコースは選択科目					
教科書・テキスト等	イタリア歌曲集 I (全音楽譜出版社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
声楽 II	常森 寿子・桑原 理恵 他	クラス分け	1 単位	音楽学科 1 年次	後期	必修	必修			B E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
呼吸法や発声など声楽の基礎技術についての知識を演奏の中で活かすことができる。イタリア語の発音の仕方に慣れ、母音の響きを大切に歌うことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する	9	各自課題曲 5 (言葉と表現)	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる		
	2	各自課題曲 4 (発音と呼吸法)	課題曲をイタリア語で練習する	レッスン内容をまとめる	10	各自課題曲 6 (歌詞と発語)	発音に気をつけて課題曲を練習する	レッスン内容をまとめる		
	3	各自課題曲 4 (母音の響き)	母音の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	11	各自課題曲 6 (テンポ・強弱などの表現)	楽譜に書かれている表示記号を表現して歌う	レッスン内容をまとめる		
	4	各自課題曲 4 (言葉と響き)	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	12	各自課題曲 6 (伴奏と旋律)	伴奏と歌との関わりを理解して歌う	レッスン内容をまとめる		
授業の概要										
声楽 I にひきつづき「歌う」ことの基礎となる呼吸、発声を練習曲、イタリア歌曲を通して学ぶ。またイタリア語の発音と古典の節度ある表現法を習得する。レッスンの曲に関しては担当教員の指導に従って決める。*試験曲はイタリア歌曲集より選曲する	5	各自課題曲 4 (旋律の表現)	フレーズのまわりを感じて歌う練習をする	レッスン内容をまとめる	13	実技試験に向けたまとめ 1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する		
	6	各自課題曲 5 (イタリア語の発音と母音の響き)	母音の響きに気をつけてイタリア語で練習する	レッスン内容をまとめる	14	実技試験に向けたまとめ 2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する		
	7	各自課題曲 5 (イタリア語と旋律)	イタリア語を乗せて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	15	実技試験に向けたまとめ 3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる		
	8	各自課題曲 5 (旋律と呼吸)	フレーズと呼吸の関わりを感じて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる	備考 ※教職課程必修(声楽コースを除く) ※サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスコースは選択科目					
教科書・テキスト等	イタリア歌曲集 I (全音楽譜出版社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
合唱Ⅰ	菊村 隆史	単独	2単位	音楽学科・こども学科 1年次	前期	必修	必修			ABDEFH
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる	9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	2	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習①呼吸のコントロールと発声のメカニズムについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Aの実習、発語（ディクショ）について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	3	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Bの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	4	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Bの実習、発語（ディクショ）について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
授業の概要	5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習①移動ト唱法とソルミゼーションその1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習②移動ト唱法とソルミゼーションその2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律型歌、オルガヌム等を用いて完全4度または完全5度の響きを味わい音程感覚を養う。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2～3声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルを研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習						
教科書・テキスト等	必要に応じて配付、または個人購入して使用する、詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かしている			
					課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察			
					平常点（態度・行動観察）	20%	授業態度、積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
合唱Ⅱ	菊村 隆史・桑原 理恵・村橋 和子	複数	2単位	音楽学科・こども学科 1年次	後期	必修	必修			ABDEFH
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	シラバスを確認	計画を立てる	9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	2	楽曲演奏と実習① 組曲第1曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	10	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	3	楽曲演奏と実習② 組曲第2曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
	4	楽曲演奏と実習③ 組曲第3曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習		
授業の概要	5	楽曲演奏と実習④ 組曲第4曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	13	リハーサル	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習		
	6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第5曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	14	演奏会	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習		
	7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第6曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習	15	総括と反省	既習事項のまとめと練習	合唱音楽についてまとめる		
	8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第7曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習						
教科書・テキスト等	必要に応じて配布、または個人購入して使用する、詳細は授業時に指示する。			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かしている			
					課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察			
					平常点（態度・行動観察）	20%	授業態度、積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
合奏Ⅰ	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修	必修		選択必修	A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
指揮者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしなが ら、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営する場合もあり、出演することと同時に裏方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も付けていくことができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（授業計画等）	シラバスを確認	次の授業に備える	9	定期演奏会プログラム①（毎年異なるの で、当該年でのプログラムから2曲程 度）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
	2	基礎合奏 他	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	10	定期演奏会プログラム②（毎年異なるの で、当該年でのプログラムから2曲程 度）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
	3	合奏における注意点 他	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	11	定期演奏会プログラム③（毎年異なるの で、当該年でのプログラムから2曲程 度）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
	4	吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ（毎年発 表される全日本吹奏楽コンクール課 題曲のⅠ）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	12	定期演奏会プログラム④（毎年異なるの で、当該年でのプログラムから2曲程 度）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
授業の概要	5	吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ（毎年発 表される全日本吹奏楽コンクール課 題曲のⅡ）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	13	総リハーサル（本番を想定し、緊張感 をもって臨む）	プログラム全 曲につい て、注意 すべき点 をチェッ クする	本番に備 えての 準備他	注意や指 摘され たところ の最終 調整と 練習	
アンサンブル等、小編成や室内 楽を大きくした大合奏を基本と する。※ここでは主科生中心の 「吹奏楽」の内容を主とする が、その他に「打楽器」、 「ヴァイオリン」、「箏」のク ラスがあり、それぞれの担当 者が内容についての指示を出す ものとする。	6	吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ（毎年発 表される全日本吹奏楽コンクール課 題曲のⅢ）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	14	定期演奏会（これまでの内容を演奏会に 活かす）	本番に備 えての 準備他	本番を終 えての 反省点を まとめる	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
	7	吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ（毎年発 表される全日本吹奏楽コンクール課 題曲のⅣ）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	15	総括と反省会	反省点をま とめて 準備して おく	前期で学 んだこ との確 認と後 期への 展望を 考える	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
	8	吹奏楽コンクール課題曲Ⅴ（毎年発 表される全日本吹奏楽コンクール課 題曲のⅤ）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	備考 ※音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種におい ては「14単位以上」の中の一つとなる					
教科書・テキスト等	各担当者により指示			成 績 評 価 基 準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点	30%	授業態度と積極的姿勢			
					課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
合奏Ⅱ	馬込 勇・柏尾 剛徳 他	クラス分け	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修	必修		選択必修	A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
前期の経験により得たことを活 かし、吹奏楽の更なる研究、 演奏者・指導者としての両方 の視点で授業に参加し、より 深く学んでいくこと、将来的 に指導者を目指すものに対 して適応力および対応力を も養うことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	前期の復習（前期に学んだこと の復習および確認）	前期で学 んだこ とを今 一度 復習し ておく	次の授業 に備 える	9	基本的奏法の修得とその応用⑧（各 楽器・パートそれぞれの役割につ いて）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
	2	基本的奏法の修得とその応用①（教 材となる曲の発表とその音出し）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	10	基本的奏法の修得とその応用⑨（様 々な楽器の特色と奏法）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
	3	基本的奏法の修得とその応用②（教 材曲の演奏と分析）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	11	基本的奏法の修得とその応用⑩（音 楽的表現における音色の研究）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
	4	基本的奏法の修得とその応用③（リ ズム・音程のトレーニング）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	12	基本的奏法の修得とその応用⑪（更 なる表現方法の研究）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
授業の概要	5	基本的奏法の修得とその応用④（リ ズム・音程のトレーニングを基に 発想を自由に転換）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	13	まとめ①（教材楽曲を通しての確 認と応用①）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
アンサンブル等、小編成や室内 楽を大きくした大合奏を基本と する。※ここでは主科生中心の 「吹奏楽」の内容を主とする が、その他に「打楽器」、 「ヴァイオリン」、「箏」のク ラスがあり、それぞれの担当 者が内容についての指示を出す ものとする。	6	基本的奏法の修得とその応用⑤（独 奏では経験できない音楽体験を する）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	14	まとめ②（教材楽曲を通しての確 認と応用②）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
	7	基本的奏法の修得とその応用⑥（ア ンサンブルを通して曲の表現方法 を学ぶ）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	15	まとめ③（教材楽曲の発表会〔ミニ コンサート〕）	発表会への 準備等	授業の総 括と反 省	注意や指 摘され たところ の反復 練習	
	8	基本的奏法の修得とその応用⑦（合 奏というジャンルを幅広く理解 する）	教材となっ ている楽 曲の研究 と練習	注意や指 摘され たところ の反復 練習	備考 ※音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種におい ては「14単位以上」の中の一つとなる					
教科書・テキスト等	各担当者により指示			成 績 評 価 基 準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点	30%	授業態度と積極的姿勢			
					課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
演奏実技Ⅰ	実技系教員（主に管弦打）	クラス分け	1単位	音楽学科 1年次	前期	※				A B D	
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	ガイダンス（年間計画等）	事前に練習をしておく	次のレッスンへの準備	9	基礎練習⑤（スケール〔b系短調〕）	事前練習	学修内容の復習			
	2	楽器の歴史	事前に調べておく	学修内容の復習	10	基礎練習⑥（スケール〔#系短調〕）	事前練習	学修内容の復習			
	3	楽器の特徴と構造	事前に調べておく	学修内容の復習	11	簡単なソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習			
	4	呼吸法	前に実践しておく	学修内容の復習	12	ソロ曲（粗通し）	事前練習	学修内容の復習			
	授業の概要										
	原則として、以前経験したことがある楽器について、専門（例えば管弦打楽器）に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約（約30分）以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる。	5	基礎練習①（ロングトーン）	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲（テンポとアーティキュレーションの確認）	事前練習	学修内容の復習		
		6	基礎練習②（フィンガリング・リップスラー）	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲（音楽的表現を伴った伴奏合わせ）	事前練習	学修内容の復習		
		7	基礎練習③（スケール〔b系長調〕）	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ（人前での披露演奏）	事前練習	前期の反省 他		
8		基礎練習④（スケール〔#系長調〕）	事前練習	学修内容の復習	備考 ※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可						
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等					平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢				
					演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かしているか				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
演奏実技Ⅱ	実技系教員（主に管弦打）	クラス分け	1単位	音楽学科 1年次	後期	※				A B D	
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	前期の反省および確認	事前に準備しておく	次のレッスンへの準備	9	ソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習			
	2	エチュードの選定（内容の説明他）	事前に準備しておく	学修内容の復習	10	ソロ曲A-1	事前練習	学修内容の復習			
	3	エチュードA-1	事前練習	学修内容の復習	11	ソロ曲A-2	事前練習	学修内容の復習			
	4	エチュードA-2	事前練習	学修内容の復習	12	ソロ曲A-3（粗通し）	事前練習	学修内容の復習			
	授業の概要										
	原則として、以前経験したことがある楽器について、専門（例えば管弦打楽器）に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約（約30分）以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる。	5	エチュードA-3	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲A-4（テンポとアーティキュレーションの確認）	事前練習	学修内容の復習		
		6	エチュードA-4	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲A-5（音楽的表現を伴った伴奏合わせ）	事前練習	学修内容の復習		
		7	エチュードA-5	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ（人前での披露演奏）	事前練習	後期の反省 他		
8		エチュードA-6	事前練習	学修内容の復習	備考 ※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可						
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等					平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢				
					演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かしているか				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
リトミックⅠ	隈部 文	単独	1単位	音楽学科・こども学科 1年次	前期	※				A E H
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
リトミックを体験することにより、「集中力」「直感力」「記憶力」「創造力」「想像力」など高まり、音や音楽を深く感じられるようになる。リズムの持つエネルギーの違いが表現できる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 基本的な動きと即時反応	シラバスに目を通しておく	エミール＝ジャック・ダルクローズについて調べる	9	リズムフレーズ（クラブとステップ）	課題のリズムフレーズをクラブしておく	自分でリズムフレーズを作りクラブやステップをす		
	2	ビート（拍）	配布資料を読み、様々なジャンルの音楽を聴いておく	様々な音楽を聴きながらビートを叩く	10	ポリリズム	課題のリズムをクラブ、ステップしておく	自分で考えたポリリズムをクラブやステップする		
	3	ダイナミクスとテンポ	配布資料を読んでおく	いろいろな速さの音楽を聴きながらビートを叩く	11	曲の形式	提示された曲を聴いておく	いろいろな曲の形式を調べる		
	4	拍子	配布資料を読んでおく	様々な曲を歌いながら拍子をクラブやステップする	12	ニュアンス	配布資料を読んでおく	自分の好きな曲をいろいろなニュアンスで歌ってみる		
授業の概要	5	アナクルーシス	拍子の復習をしておく	身近な曲からアナクルーシスを探す	13	補足リズム	基礎リズムやリズムパターンをクラブしておく	いろいろな曲を補足リズムをクラブする		
感覚を通した反応活動を伴いながら音楽の持つ様々な要素を身体全体で感じていく。常に動きながら音楽を体験し、心と身体の調和を促したり、音楽的センスを培っていく。	6	基礎リズム	基本的なリズムをクラブしておく	授業を振り返り、基礎リズムの体験方法を考えてみる	14	連鎖リズムとカノン	課題のリズムをクラブ、ステップしておく	授業で取り上げた課題を確実にできるようにしておく		
	7	リズムパターン（リズム型）	物の名前を言いながらクラブしておく	授業で学んだリズムパターンをステップしておく	15	まとめ	実技試験の準備	実技試験の振り返り		
	8	リズムフレーズ（声とクラブ）	短文を言いながら区クラブしておく	リズムフレーズをリズム唱で唱えたりクラブする	備考 ※卒業要件として、音楽学科は選択、こども学科は必修					
教科書・テキスト等	基礎からわかるリトミック！リトミック！ 石丸 由理 著（ひかりのくに出版）			成績評価基準	評価方法	割合（％）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授業 ヴァージニア・ホッジ・ミード著 神原雅之他 訳（ふくろう出版）				平常点	40%	授業への積極的な取り組み、受講態度			
					定期試験（実技試験）	60%	リズムの正確さ			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
リトミックⅡ	隈部 文	単独	1単位	音楽学科・こども学科 1年次	後期	※				A E G H
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
保育や幼児教育、学校教育などさまざまな現場で生かせるリトミック指導ができるようになる。動きのためのピアノが弾けるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	動きのための音楽①（ステップ）	夏休みの課題曲を弾いておく	授業で弾いた曲を練習しておく	9	指導案の組み立て	配布資料を読んでおく	指導案を考える		
	2	動きのための音楽②（動物・乗り物 他）	課題曲を弾いておく	授業で弾いた曲を練習しておく	10	ロールプレイ①	ロールプレイの準備をする	ロールプレイの良い点や改善点をまとめる		
	3	いろいろな表現①（ボディーパーカッション）	課題のリズムを叩いてくる	ボディーパーカッションの自分の曲を作る	11	ロールプレイ②	ロールプレイの準備をする	ロールプレイの良い点や改善点をまとめる		
	4	いろいろな表現②（身体表現を伴った言葉のアンサンブル）	課題のリズムを叩いてくる	言葉のアンサンブルの自分の曲を作る	12	音楽の視覚化①～プラスチックアニメ（曲の分析）	課題曲を聴いておく	インターネットでプラスチックアニメの動画を観		
授業の概要	5	いろいろな表現③（絵本に動きをつける）	グループで絵本を考え、内容を把握しておく	好きな絵本に音楽を付けてみる	13	音楽の視覚化②～プラスチックアニメ（曲を動く）	課題曲の音楽の要素の合う身体の動きを考えておく	グループで作った動きを復習しておく		
リトミックⅠで経験したことを基盤として発展させ、保育や幼児教育、また学校教育の現場で生かせるリトミック指導法や、音楽と動きを関連付けた音楽教育としてのリトミックを習得する。	6	速さの違いを感じての動き	課題曲を聴いておく	授業を振り返り、自分なりのアプローチを考える	14	音楽の視覚化③～プラスチックアニメ（仮発表と検討）	自分の動きを確認する	授業で撮影した動画を観て客観的に振り返り、再考する		
	7	楽器の音色の違いを楽しみながらの動き	課題曲を聴いておく	いろいろな楽器の音楽を聴き、動きをイメージする	15	まとめ	実技試験の準備	これまでの授業内容と、実技試験の振り返り		
	8	3拍子を感じて「メヌエット」を味わう	課題曲を聴いておく	自分なりの3拍子のアプローチを考えてみる	備考 ※卒業要件として、音楽学科は選択、こども学科は必修					
教科書・テキスト等	基礎からわかるリトミック！リトミック！ 石丸 由理 著（ひかりのくに出版）			成績評価基準	評価方法	割合（％）	評価のポイント			
参考書・参考資料等	リトミックでつくる楽しい音楽授業 井上 恵理・酒井 恵美子 共著（明治図書）、 ダルクローズ・アプローチによる子どものための音楽授				平常点	40%	授業への積極的な取り組み、受講態度			
					定期試験（実技試験）	60%	音楽の捉え方、動きの工夫、全体の構成			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽理論ⅠA	柏尾 剛徳	単独	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修	必修		選択必修	AD
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽を専門的に勉強するにあたり、最も重要な「楽典（音楽理論）」を基礎から学ぶことができる。小中高と学んできた「音楽」の理解度の確認、そしてさらに詳しく理論的に学び、今後の音楽活動に実践していくことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（これから学ぶにあたっての心構え 他）	シラバスで内容を確認	確認と復習	9	演奏記号と用語①（速度記号・速度用語）	速度記号・速度用語について調べておく	授業後にその復習		
	2	音楽の三要素・譜表（rhythm.melody.harmony・五線と加線他）	事前に学修内容の部分を使用教科書で予習	授業後にその復習	10	演奏記号と用語②（Dynamikを示す記号と用語および曲想を示す用語）	各用語について調べておく	授業後にその復習		
	3	音名・音高標示・変化記号（ドイツ音名・日本音名・変化記号の効力等）	音名・音高標示・変化記号について調べておく	授業後にその復習	11	演奏記号と用語③（Agogikを指示する用語およびarticulationを示す用語その他）	各用語について調べておく	授業後にその復習		
	4	音符と休符（単純音符・付点音符・複付点音符・その記譜法等）	音符と休符について調べておく	授業後にその復習	12	音楽の形式（器楽曲の形式等）	音楽の形式について調べておく	授業後にその復習		
授業の概要										
音楽の基礎的学問である「楽典」を、現実の音楽と一体化したいという思いから作られた教材「楽典・音楽家を志す人のための」を主に使用し、演奏する際に必要な知識も含め、音楽表現に役立てていくことを目標とする。前期は音楽の発展過程と、演奏するにあたり必要な知識を得ることを主な内容とする。	5	連符（連符とは・連符の変形・連符から単位音符を知る方法）	連符について調べておく	授業後にその復習	13	音程①（旋律音程と和声音程・度数・単音程と複音程・名称）	音程について調べておく	授業後にその復習		
	6	小節と拍子とrhythm（強起・弱起・拍子の種類・syncopation他）	小節と拍子とrhythmについて調べておく	授業後にその復習	14	音程②（練習問題）	教科書の練習問題を解く	授業で配られた練習問題を復習		
	7	音の装飾と奏法（装飾音・装飾記号とその奏法）	音の装飾と奏法について調べておく	授業後にその復習	15	まとめ（総まとめ）	今までの範囲とプリントを確認	授業後に復習		
	8	音型と反復とその略記法（メロディ的音型・ハーモニック音程の反復と略記法等）	音型と反復とその略記法について調べておく	授業後にその復習						
教科書・テキスト等	楽典（音楽家を志す人のための）（音楽之友社）		成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント				
参考書・参考資料等	パーフェクト楽典 ハンドブック（ドレミ楽譜）、パーフェクト楽典・問題集（ドレミ楽譜）			平常点	20%	主に授業態度、積極的な姿勢等				
				課題／小テスト	10%	課題への取り組み、姿勢				
				期末試験	70%	筆記試験の点数・内容の理解度				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽理論ⅠB	西林 博子	単独	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修	必修		選択必修	AD
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
基礎からしっかりと理解し、これから専門的に学んでいく「音楽」の礎を築き、実践的に活かせるようにすること。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（これから学ぶにあたっての心構え 他）	シラバスで確認	確認と復習	9	演奏記号と用語①（速度記号・速度用語）	速度記号・速度用語について調べておく	授業後にその復習		
	2	音楽の三要素・譜表（rhythm.melody.harmony・五線と加線他）	事前に学修内容の部分を使用教科書で予習	授業後にその復習	10	演奏記号と用語②（Dynamikを示す記号と用語および曲想を示す用語）	各用語について調べておく	授業後にその復習		
	3	音名・音高標示・変化記号（ドイツ音名・日本音名・変化記号の効力等）	音名・音高標示・変化記号について調べておく	授業後にその復習	11	演奏記号と用語③（Agogikを指示する用語およびarticulationを示す用語その他）	各用語について調べておく	授業後にその復習		
	4	音符と休符（単純音符・付点音符・複付点音符・その記譜法等）	音符と休符について調べておく	授業後にその復習	12	音楽の形式（器楽曲の形式等）	音楽の形式について調べておく	授業後にその復習		
授業の概要										
Bクラスは楽典を基礎から学びたい人や、ある程度知識があるが、より基礎から学びなおしたい人のためのクラスである。習熟度テストを導入し、理解力を確かめながら、楽典をより理論的に学んでいく。	5	連符（連符とは・連符の変形・連符から単位音符を知る方法）	連符について調べておく	授業後にその復習	13	音程①（旋律音程と和声音程・度数・単音程と複音程・名称）	音程について調べておく	授業後にその復習		
	6	小節と拍子とrhythm（強起・弱起・拍子の種類・syncopation他）	小節と拍子とrhythmについて調べておく	授業後にその復習	14	音程②（練習問題）	教科書の練習問題を解く	授業で配られた練習問題を復習		
	7	音の装飾と奏法（装飾音・装飾記号とその奏法）	音の装飾と奏法について調べておく	授業後にその復習	15	まとめ（総まとめ）	今までの範囲とプリントを確認	授業後に復習		
	8	音型と反復とその略記法（メロディ的音型・ハーモニック音程の反復と略記法等）	音型と反復とその略記法について調べておく	授業後にその復習						
教科書・テキスト等	新装版 楽典 理論と実習（音楽之友社） イタリア語から学ぶ ひと目で納得！音楽用語辞典（全音楽譜出版）		成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント				
参考書・参考資料等				平常点	30%	主に授業態度、積極的な姿勢等				
				習熟度テスト	10%	理解度				
				期末テスト	60%	筆記試験での点数				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽理論ⅡA	柏尾 剛徳	単独	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修	必修		選択必修	AD
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽を専門的に勉強するにあたり、最も重要な「楽典（音楽理論）」を基礎から学ぶことができる。小中高と学んできた「音楽」の理解度の確認、そしてさらに詳しく理論的に学び、今後の音楽活動に実践していくことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	音階と調①（長音階）	長音階について調べておく	授業後にその復習	9	音階と調⑨（旋律の調性判断における練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習		
	2	音階と調②（短音階）	短音階について調べておく	授業後にその復習	10	音階と調⑩（移調の方法）	移調について調べておく	授業後にその復習		
	3	音階と調③（①②の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習	11	音階と調⑪（移調の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習		
	4	音階と調④（全音階と半音階および民族的音階）	全音階と半音階および民族的音階について調べておく	授業後にその復習	12	和音①（和音の種類）	和音の種類について調べておく	授業後にその復習		
	5	音階と調⑤（近親調と遠隔調）	近親調と遠隔調について調べておく	授業後にその復習	13	和音②（和音の転回等）	和音の転回について調べておく	授業後にその復習		
	6	音階と調⑥（⑤の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習	14	総復習（前期および後期で学修したことの復習）	今までやってきたことをまとめる	総復習で得たことを基に復習		
	7	音階と調⑦（旋律の調性判断の方法①）	旋律の調性判断について調べておく	授業後にその復習	15	まとめ（総まとめ）	今までの範囲とプリントを確認	授業後に復習		
8	音階と調⑧（旋律の調性判断の方法②）	調性判断の方法について調べておく	授業後にその復習							
授業の概要	音楽の基礎的学問である「楽典」を、現実の音楽と一体化したいという思いから作られた教材「楽典・音楽家を志す人のための」を主に使用し、演奏する際に必要な知識も含め、音楽表現に役立てていくことを目標とする。後期は和声法や対位法などを理解する上で必要な、基礎的な音楽理論を中心とする。									
教科書・テキスト等	楽典（音楽家を志す人のための）（音楽之友社）	成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント					
参考書・参考資料等	パーフェクト楽典 ハンドブック（ドレミ楽譜）、パーフェクト楽典・問題集（ドレミ楽譜）	平常点	課題／小テスト	20%	主に授業態度、積極的な姿勢等					
		期末試験		10%	課題への取り組み、姿勢					
				70%	筆記試験の点数・内容の理解度					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽理論ⅡB	西林 博子	単独	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修	必修		選択必修	AD
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
基礎からしっかりと理解し、これから専門的に学んでいく「音楽」の礎を築き、実践的に活かせるようにすること。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	音階と調①（長音階）	長音階について調べておく	授業後にその復習	9	音階と調⑨（旋律の調性判断における練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習		
	2	音階と調②（短音階）	短音階について調べておく	授業後にその復習	10	音階と調⑩（移調の方法）	移調について調べておく	授業後にその復習		
	3	音階と調③（①②の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習	11	音階と調⑪（移調の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習		
	4	音階と調④（全音階と半音階および民族的音階）	全音階と半音階および民族的音階について調べておく	授業後にその復習	12	和音①（和音の種類）	和音の種類について調べておく	授業後にその復習		
	5	音階と調⑤（近親調と遠隔調）	近親調と遠隔調について調べておく	授業後にその復習	13	和音②（和音の転回等）	和音の転回について調べておく	授業後にその復習		
	6	音階と調⑥（⑤の練習問題）	あらかじめ練習問題等を解いておく	授業後にその復習	14	総復習（前期および後期で学修したことの復習）	今までやってきたことをまとめる	総復習で得たことを基に復習		
	7	音階と調⑦（旋律の調性判断の方法①）	旋律の調性判断について調べておく	授業後にその復習	15	まとめ（総まとめ）	今までの範囲とプリントを確認	授業後に復習		
8	音階と調⑧（旋律の調性判断の方法②）	調性判断の方法について調べておく	授業後にその復習							
授業の概要	Bクラスは楽典を基礎から学びたい人や、ある程度知識があるが、より基礎から学びなおしたい人のためのクラスである。習熟度テストを導入し、理解力を確かめながら、楽典をより理論的に学んでいく。									
教科書・テキスト等	新装版 楽典 理論と実習（音楽之友社） イタリア語から学ぶ ひと目で納得！音楽用語辞典（全音楽譜出版）	成績評価基準	評価方法	割合（%）	評価のポイント					
参考書・参考資料等		平常点	習熟度テスト	30%	主に授業態度、積極的な姿勢等					
		期末テスト		10%	理解度					
				60%	筆記試験での点数					

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽史Ⅰ(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	木村 博子	単独	2単位	音楽学科 2年次	前期	選択	必修			ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽の歴史をグローバルな観点から捉えることにより、幅広い教養を身につけることを目標とする。西洋音楽史については音楽史の流れを把握し、各時代の音楽様式や作曲家について理解する。日本音楽史については、西洋音楽との比較も行いつつ、歴史の変遷と基本的な音楽理論を学ぶ。諸民族の音楽では西洋近代への影響にも言及しつつ、人間にとって音楽とは何かを考える。以上を視聴覚映像を多用しつつ、学生とのディスカッションを交えて進捗させていく。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ガイダンス：なぜ音楽史を学ぶか～人間と音楽	自分と音楽の関係を振り返る。	教科書の第1部序章をまとめる。	9	日本音楽史(古代～平安時代) 古代から平安時代までの音楽の種類と歴史を理解する。	古代から平安時代までの文化を調べる。	教科書第2部第1章をまとめる。		
	2	西洋音楽史(古代ギリシア) 古代ギリシアにおける音楽の考え方を通して、西洋音楽に通底する特質について考える。	教科書の第1部第1章を読む。	ギリシア人にとって音楽とは何だったのかまとめる。	10	日本音楽史(戦国・安土桃山時代) 能楽について学ぶ。	能『道成寺』を視聴する。	教科書第2部第2章をまとめる。		
	3	西洋音楽史(中世) キリスト教と音楽の関係、ポリフォニーの発展について理解する。	グレゴリオ聖歌とオルガナムを聴く。	教科書の第1部第2章をまとめる。	11	諸民族の音楽(概要) 世界の民族音楽を大陸別に概説する。	世界の地域と気候を予習する。	世界の音楽の概要をまとめる。		
	4	西洋音楽史(ルネサンス) フランドル楽派の音楽とイタリア・ルネサンス音楽について理解する。	イタリア・ルネサンス文化について調べる。	教科書の第1部第3章と第4章をまとめる。	12	諸民族の音楽(アジアの音楽①) 東アジアと東南アジアの音楽について学ぶ。	東アジア、東南アジアの文化について調べる。	同地域の音楽を視聴する。		
	5	西洋音楽史(バロック①) オペラの創始と発展を理解する。	モンテヴェルディの『オルフェオ』を視聴する。	教科書の第1部第5章をまとめる。	13	諸民族の音楽(アジアの音楽②) 中央アジアと西アジアの音楽について学ぶ。	アラビア半島の歴史について調べる。	同地域の音楽を視聴する。		
	6	西洋音楽史(バロック②) バロックの楽器の発展について学ぶ。	バロックの楽器の種類について調べる。	教科書の第6章前半(pp.61～65)をまとめる。	14	まとめ①(西洋音楽と諸民族の音楽との関係) 18世紀までの西洋音楽と非西洋音楽との関係について考える。	西洋音楽と諸民族の音楽の違いについて考える。	西洋音楽における民族音楽の影響をまとめる。		
	7	西洋音楽史(バロック③) バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディの音楽について学ぶ。	教科書の第6章後半(pp.65～68)を読む。	バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディの作風をまとめる。	15	まとめ② 1～14回の授業の総括	これまでの授業内容の復習をする。	これまでの内容をレポートにまとめる。		
	8	日本音楽史(導入：日本文化と音楽) 日本文化の諸相を検討し、それと音楽との関係を考える。	「日本」とは何か考える。	日本固有の音の感性についてまとめる。						
教科書・テキスト等	『決定版 はじめての音楽史～古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』(音楽之友社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	『はじめての世界音楽～諸民族の伝統音楽からポップスまで』(音楽之友社)、『日本音楽との出会い～日本音楽の歴史と理論』(東京堂出版)、『音楽史を学ぶ～古代ギリシアから現代まで』(教育芸術社)				平常点(授業への取組)	30%	積極的な発言や質問、意欲			
					課題・レポート	70%	内容の理解、自分の考えや感じ方の表現方法			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽史Ⅱ(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	木村 博子	単独	2単位	音楽学科 2年次	後期	選択	必修			ABDE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音楽の歴史をグローバルな観点から捉えることにより、幅広い教養を身につけることを目標とする。西洋音楽史については音楽史の流れを把握し、各時代の音楽様式や作曲家について理解する。日本音楽史については、西洋音楽との比較も行いつつ、歴史の変遷と基本的な音楽理論を学ぶ。諸民族の音楽では西洋近代への影響にも言及しつつ、人間にとって音楽とは何かを考える。以上を視聴覚映像を多用しつつ、学生とのディスカッションを交えて進捗させていく。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	西洋音楽史(導入：近代市民社会と音楽) 前古典派の活動と古典派の特質を理解する。	前期の復習をする。	教科書の第1部第7章をまとめる。	9	日本音楽史(江戸時代) 歌舞伎と文楽について学ぶ。	歌舞伎『勲進帳』、文楽『平家女護島』を視聴する。	教科書第2部第3章をまとめる。		
	2	西洋音楽史(古典派①) ハイドン、モーツァルトの生涯と音楽について学ぶ。	教科書の第1部第8章を読む。	ハイドンとモーツァルトについてまとめる。	10	日本音楽史(近代) 明治以降の音楽について学ぶ。	明治以降の日本史を調べる。	教科書第2部第4章をまとめる。		
	3	西洋音楽史(古典派②) ベートーヴェンの生涯と音楽について学ぶ。	ベートーヴェンの交響曲第3、5、9番を聴く。	教科書の第1部第8章をまとめる。	11	日本音楽史(現代) 第2次大戦以降の音楽について学ぶ。	武満徹の音楽を聴く。	教科書第3部第1章、第2章をまとめる。		
	4	西洋音楽史(ロマン主義前期) 19世紀の時代背景とロマン主義の音楽の特質、シューベルト、メンデルスゾーンの音楽について学ぶ。	シューベルトとメンデルスゾーンの曲を聴く。	教科書の第1部第9章(ショパンを除く)をまとめる。	12	諸民族の音楽(アフリカの音楽) アフリカの音楽とジャズについて学ぶ。	アフリカの歴史について調べる。	ジャズの歴史をまとめる。		
	5	西洋音楽史(ロマン主義の諸相①) 19世紀のピアノ音楽について学ぶ。	ショパンとリストの曲を聴く。	ショパンとリストについてまとめる。	13	諸民族の音楽(南アメリカの音楽) 南アメリカの音楽について学ぶ。	南アメリカの歴史について調べる。	同地域の音楽を視聴する。		
	6	西洋音楽史(ロマン主義の諸相②) 後期ロマン主義の音楽について学ぶ。	ヴァグナーの楽劇論について調べる。	教科書の第1部第10章をまとめる。	14	まとめ①(西洋音楽と諸民族の音楽との関係) 20世紀までの西洋音楽と非西洋音楽との関係について考える。	西洋音楽と諸民族の音楽の違いについて考える。	現代の音楽における民族音楽の影響について考える。		
	7	西洋音楽史(20世紀の音楽①) 調性の崩壊と12音音楽について理解する。	19世紀末～20世紀前半の時代背景を調べる。	教科書の第1部第11章をまとめる。	15	まとめ② 1～14回の授業の総括	これまでの授業内容の復習をする。	これまでの内容をレポートにまとめる。		
	8	西洋音楽史(20世紀の音楽②) 第2次世界大戦後の音楽について学ぶ。	トータル・セリーと偶然性の音楽について調べる。	教科書の第1部第12章をまとめる。						
教科書・テキスト等	『決定版 はじめての音楽史～古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』(音楽之友社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等	『はじめての世界音楽～諸民族の伝統音楽からポップスまで』(音楽之友社)、『日本音楽との出会い～日本音楽の歴史と理論』(東京堂出版)、『音楽史を学ぶ～古代ギリシアから現代まで』(教育芸術社)				平常点(授業への取組)	30%	積極的な発言や質問、意欲			
					課題・レポート	70%	内容の理解、自分の考えや感じ方の表現方法			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ソルフェージュⅠA	西林 博子	単独	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修	選択必修		選択必修	ADEF
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
楽譜から読み取れる情報を正確に読み取り、正確かつ音楽的に演奏できる力をはじめ、聴音、視唱、視奏を中心に音楽の基礎的なソルフェージュ能力を高め、より豊かで音楽的な表現力をもつ演奏家、音楽指導者への基礎を身に付ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション 学修内容の説明 課題の目標と取り組み方について	シラバスの熟読	課題の復習	9	和音（主要3和音、副3和音）／カデンツ（I-IV-V-I）	音階と和音を覚える。コードネームを覚える	課題復習・カデンツトレーニング		
	2	メロディー視唱（長音階と各種音程の練習）／コードネーム、カデンツの導入（I-V-I）	長音階の調号、構成音を確認する	課題復習・カデンツトレーニング	10	4声体課題（上3声密集）／カデンツ（I-IV-V-I）	音階と和音を覚える。コードネームを覚える	課題復習・カデンツトレーニング		
	3	メロディー視唱（短音階と各種音程の練習）／コードネーム、カデンツの導入（I-V-I）	短音階の調号、構成音を確認する	課題復習・カデンツトレーニング	11	弾き歌い（主要3和音）／カデンツ（I-IV-V-I）	曲に応じた和音付け（コード判定）	課題復習・カデンツトレーニング		
	4	メロディー視唱（2声、3声、カノン）／カデンツ（I-V-I）	課題のトレーニング	課題復習・カデンツトレーニング	12	弾き歌い（主要3和音、II ⁺ 、I ⁺ ）／カデンツ（I-II ⁺ -V-I）、（I-II ⁺ -I ⁺ -V7-I）	曲に応じた和音付け（コード判定）	課題復習・カデンツトレーニング		
授業の概要	5	リズム練習（単純拍子、複合拍子、基礎練習）／カデンツ（I-V-I）全調①	課題のリズム練習	課題復習・カデンツトレーニング	13	旋律聴音（調の展開とリズムの細分化）／カデンツ（I-II ⁺ -V-I）、（I-II ⁺ -I ⁺ -V7-I）全調①	課題のトレーニング	課題復習・カデンツトレーニング		
音楽の基礎的なソルフェージュ能力を育成するために、聴音（短旋律、複旋律、和声、リズム）、視唱（単旋律、2声、3声、カノン）、リズム（単純拍子、複合拍子）をさまざまな携帯で学修する。コードネームを学修し、カデンツを理解し、全調で実習する。	6	リズム練習（単純拍子、複合拍子、1声部、2声部課題）／カデンツ（I-V-I）全調②	課題のリズム練習	課題復習・カデンツトレーニング	14	旋律聴音（2声、大譜表課題）／カデンツ（I-II ⁺ -V-I）、（I-II ⁺ -I ⁺ -V7-I）全調②	課題のトレーニング	実技試験課題への取り組み		
	7	リズム練習（単純拍子、複合拍子、1声部、2声部課題）／カデンツ（I-V-I）全調③	課題のリズム練習	課題復習・カデンツトレーニング	15	ソルフェージュⅠのまとめ	課題のトレーニング	資料のまとめ 筆記試験実技試験課題の復習		
	8	和音（主要3和音）／カデンツ（I-IV-V-I）	音階と和音を覚える。コードネームを覚える	課題復習・カデンツトレーニング						
教科書・テキスト等	新総合音楽講座2. ソルフェージュ(ヤマハ)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					定期試験	70%	実技（視唱・弾き歌い）、筆記（聴音）			
					平常点	30%	積極的な取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ソルフェージュⅠB	限部 文	単独	2単位	音楽学科 1年次	前期	必修	選択必修		選択必修	DE
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
ハ長調での単純拍子の簡単な視唱、聴音（単音・旋律）、リズムパターン、ハ長調のカデンツを修得する。重なった音の響きの違いを判別できるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	授業内容の説明 ソルフェージュ基礎力の確認	シラバスの熟読	確認テストを復習する	9	簡単な視唱と聴音②（リズムと旋律） 2～8度の音程練習	音程・リズムパターン練習	実作曲のメロディーの部分から8度までの音程を探す		
	2	譜表の種類を学ぶ 楽譜を読む・書く・演奏する	実技課題曲の楽譜を正確に読む	自分の実作曲のメロディー部分を写譜する	10	2つの音の響き（音程練習と聴音）	音程・リズムパターン練習	二声課題の下の音をピアノで弾き、上の音は歌う		
	3	拍の分割と倍加（単純拍子） ハ長調の音階、3度の音程練習	音程・拍子練習	ハ長調の音階を拍の分割と倍加で歌と共にピアノで弾く	11	三和音の響き（長三・短三和音の判別と聴音）	和音（I・IV・Vの基本型）を弾く	実作品から長三和音、短三和音を探す		
	4	単純拍子のリズムパターン	音程・拍子練習	リズムパターンに言葉をつける	12	三和音の響き（I・IV・Vの転回形／カデンツ）	ハ長調のスケール・カデンツを弾く	実作品の転回形を調べる		
授業の概要	5	裏拍と表拍／休符を含むリズム 4度の音程練習	音程・リズムパターン練習	実作品を取り上げメロディー中の4度音程を探す	13	三和音の響き（長・短・増・減三和音の判別）	長・短・増・減三和音を調べる	実作品から長三、短三、増三、減三和音を探す		
本授業では、音楽の3要素（リズム・メロディー・ハーモニー）について聴く・読む・表現する・創り出すことを行う。楽譜から得られる情報を正確に読み取り、心地よい響きの声で、ピッチや音名を正確かつ表情豊かに音楽的に歌う。響きの持つ性質や機能をよく感じ理解して演奏できるよう、読譜・視唱・聴音などの訓練を身体を通して音楽を感じながら音楽基礎力を高めるための実践をしていく。	6	リズムパターンと音の融合	既習課題の復習	リズムパターンに音をつける	14	聴音課題の内容理解を確認する	既習課題の確認	聞こえてくる音楽に耳を傾け歌ってみる		
	7	1～6の内容確認 リズムアンサンブル	音程・リズムパターン練習	確認テストを復習する。簡単なリズムアンブルを作る	15	リズム・視唱課題の内容理解を確認する	既習課題の確認	前期の全ての学修内容の復習		
	8	簡単な視唱と聴音①（リズムと旋律） 2～5度の音程練習	音程・リズムパターン練習	実作曲のメロディーの部分から5度までの音程を探す	備考 ※教職課程8単位必修					
教科書・テキスト等	適宜プリントを配布			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					期末試験	50%	授業内容の理解			
					平常点（態度・行動観察）	30%	授業の取り組み・参加の態度			
					課題／レポート	20%	リズム・視唱課題の取り組み			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
ソルフェージュⅡA	西林 博子	単独	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修	選択必修		選択必修	ADEF	
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
楽譜から読み取れる情報を正確に読み取り、正確かつ音楽的に演奏できる力をはじめ、聴音、視唱、視奏を中心に音楽の基礎的なソルフェージュ能力を高め、より豊かで音楽的な表現力をもつ演奏家、音楽指導者への基礎を身に付ける。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	オリエンテーション ソルフェージュⅠの反省とⅡの課題・目標について	シラバスの熟読	課題の復習	9	4声体課題短調（開離、借用和音を含む）／メロディーのコード判別、伴奏付け	課題のトレーニング	4声体コラールの演奏			
	2	メロディー視唱、移動ド唱法①／メロディーのコード判別、伴奏付け	課題の和音アナリーゼ	課題復習	10	旋律聴音（調の展開とリズムの細分化）／メロディーのコード判別、伴奏付け	課題のトレーニング	課題復習			
	3	メロディー視唱、移動ド唱法②／メロディーのコード判別、伴奏付け	課題の和音アナリーゼ	課題復習	11	旋律聴音（調の展開とリズムの細分化、転調）①／メロディーのコード判別、伴奏付け	課題のトレーニング	課題復習			
	4	メロディー視唱（2声、3声、カノン）／メロディーのコード判別、伴奏付け	課題の和音アナリーゼ	課題復習	12	旋律聴音（調の展開とリズムの細分化、転調）②／メロディーのコード判別、伴奏付け	課題のトレーニング	課題復習			
	授業の概要										
	5	読譜（アルト譜表）①／メロディーのコード判別、伴奏付け	アルト譜表の読譜練習	課題復習	13	旋律聴音（2声、大譜表課題）／様々なコードによる伴奏付け	課題のトレーニング	課題復習			
	6	読譜（ハイドン：ストリングカルテット）／メロディーのコード判別、伴奏付け	アルト譜表の読譜練習、課題のCD鑑賞	課題復習	14	旋律聴音（2声、大譜表課題）／様々なコードによる伴奏付け	課題のトレーニング	実技試験課題への取り組み			
	7	読譜（移調楽器の記譜と実音）／メロディーのコード判別、伴奏付け	吹奏楽スコアの読譜	課題復習	15	ソルフェージュⅡのまとめ	試験課題への取り組み	資料のまとめ・筆記試験 実技試験課題の復習			
8	4声体課題長調（開離、借用和音を含む）／メロディーのコード判別、伴奏付け	課題のトレーニング	4声体コラールの演奏								
教科書・テキスト等	新総合音楽講座2.ソルフェージュ(ヤマハ)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等					定期試験	70%	実技（視唱・弾き歌い）、筆記（聴音）				
					平常点	30%	積極的な取り組み				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー	
ソルフェージュⅡB	隈部 文	単独	2単位	音楽学科 1年次	後期	必修	選択必修		選択必修	DE	
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
ハ長調やイ短調での単純拍子や複合拍子の視唱、聴音（旋律・二声・和音）、リズムパターン、イ短調のカデンツを修得する。重なった音の響きを聴き分け、構成音を聴き取ることができるようになる。重なった音の響きの違いを判別できるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	ソルフェージュⅠの内容理解の確認	シラバスの熟読	確認テストの復習をする	9	イ短調の簡単な視唱と聴音（単純拍子）	イ短調のスケール・カデンツを弾く	二声課題の下の音をピアノで弾き、上の音は歌う			
	2	拍子とリズム①（バイナリービートとターナリービート）	音程・リズムパターン練習	バイナリービートの曲を探しメロディーを歌う	10	イ短調の簡単な視唱と聴音（8分の6拍子）	イ短調のスケール・カデンツを弾く	二声課題の下の音を歌い、上の音はピアノで弾く			
	3	拍子とリズム②（8分の6拍子のリズムパターン）	音程・リズムパターン練習	ターナリービートの曲を探しメロディーを歌う	11	二声（リズムの視唱と聴音）	2音の音程練習	課題曲の各声部のリズムを叩く			
	4	拍子とリズム③（8分の6拍子の視唱と聴音）	音程・リズムパターン練習	課題曲を写譜したビートを叩きながら歌う	12	二声（ト音譜表・ヘ音譜表の視唱と聴音）	2音の音程練習	課題曲の各声部をビートを叩きながら歌う			
	授業の概要										
	5	拍子とリズム④（8分の6拍子の休符とタイを含む視唱と聴音）	音程・リズムパターン練習	課題曲を写譜したビートを叩きながら歌う	13	二声（大譜表の視唱と聴音）	2音の音程練習	課題曲の各声部をビートを叩きながら歌う			
	6	拍子とリズム⑤（楽曲を用いた8分の6拍子の読譜練習）	音程・リズムパターン練習	課題曲をいろいろなクレで読譜してみる	14	聴音課題の内容理解を確認する	既習課題の確認	聞こえてくる音楽のリズムを叩きメロディーを歌う			
	7	1～6の内容確認 リズムアンサンブル	既習課題の復習	確認テストの復習、6/8のリズムアンサンブルを作	15	リズム・視唱課題の内容理解を確認する	既習課題の確認	後期の全ての学修内容の復習			
8	イ短調の音階とメロディーパターン	イ短調のスケール・カデンツを弾く	イ短調の曲を探しメロディーを歌う	備考 ※教職課程8単位必修							
教科書・テキスト等	適宜プリントを配布			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等					期末試験	50%	授業内容の理解				
					平常点（態度・行動観察）	30%	授業の取り組み・参加の態度				
					課題／レポート	20%	リズム・視唱課題の取り組み				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
アートマネージメントⅠ	小西 たくま	単独	2単位	音楽学科 2年次	前期	※				A B C F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
1	アートマネージメント概論 広義的・狭義的な観点から必要性・捉え方・人材の資質・能力等を包括的に理解する。	シラバスを熟読する。	社会における必要性を考える。	9	演出の役割と業務 演出の役割と業務について理解し、構成及びプログラム作成について学ぶ	過去の舞台体験から演出的要素を思い出す	自らの企画に必要な演出を再考する			
2	ステージパフォーマンスを行うための制作業務と実際 アートマネージメントをステージパフォーマンスに特化して考える。	自ら行っているパフォーマンスについて考える。	様々なステージパフォーマンス上演チラシから情報取得	10	舞台監督の役割と業務 舞台監督の役割と業務について理解する(特に音楽、舞踏等専門性の必要性を知る)	舞台スタッフの組織を再学習する	音楽的舞台での舞台監督の重要性を再考する			
3	制作業務①として企画立案のポイントを学び、企画コンセプト立案の重要性を知る	様々な公演から企画コンセプトを探る。	「企画する事」の社会的意味を考える	11	舞台の機構を知る 舞台機構の持つ役割と特性を学ぶ	舞台の設備でわからないものをチェックしておく	舞台に特化された専門用語を覚える			
4	制作業務②として企画書作成(演目の選定及び構成)企画内容を作成する	自らが行いたいステージをイメージする	自らが合った企画の再検討をする	12	司会者および照明、音響、美術の役割とそれぞれの持つ役割と業務を学ぶ	過去の舞台でのそれぞれの役割を思い出す	自らの企画におけるベストな役割を再確認する			
授業の概要										
コンサートを含むイベントの企画立案を組み立てていくノウハウを取得する。公開上演に至る過程に必要な課題や役割を学ぶ。	5	企画に沿った劇場とは 劇場史と社会的役割〜様々なホール の特性を知り、選び方を学ぶ〜	過去の劇場体験を想起する	自らの企画に合ったホールを検討する	13	上演スケジュール作成 長期的、短期的、直前、リハーサル、本番のスケジュールの作成方法を学ぶ	日常生活の中でスケジュール作成留意点を確認する	全てのスケジュールを実際に行う		
	6	スタッフの組織づくり 公演に必要なスタッフを組織として把握しその業務を認識する	舞台スタッフの必要性を考える	自らの企画に合ったスタッフを検討する	14	上演から制作業務終了まで 上演した作品及び制作業務をアートマネージメントの観点から検証することを学ぶ	今までの全体的流れを整理しておく	検証の重要性を確認する		
	7	プロデューサーの役割と業務 プロデューサーとしての資質、業務を企画から公演終了まで時系列に学ぶ	各業界のプロデューサーたる職分を考える	自らの企画に合ったスタッフを検討する	15	まとめとして、全般についての質疑応答とレポート作成	質問事項を想起しておく	アートマネージメントの世界で自らの必要性を再考する		
	8	予算書作成 予算書作成の重要性と歳入・歳出項目を具体的に学ぶ	公演を上演するに必要な予算項目をイメージする	自らが立案した企画に必要な予算項目を挙げる。	備考	※サウンドデザインコース必修/ミュージックパフォーマンスコース必修				
教科書・テキスト等	適宜、プリント配付		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等				課題 / レポート	80%	企画・上演・検証する迄を把握する力、アートマネージメント活用への意欲				
				平常点(態度・行動観察)	20%	疑問点への取組、受講態度、課題への取組				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
アートマネージメントⅡ	脇山 純	単独	2単位	音楽学科 2年次	後期	※				A C D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
1	著作権とは インターネットで調べ学習 ミーキーマウスの著作権、著作権法	シラバスに目を通す	著作権に関するニュースなどに関心をもつ	9	コンサート企画、実務概要	コンサートを開くのに必要なものをまとめる	時系列を考えコンサートの企画を考える			
2	音楽の著作権管理団体 JASRAC等	身近なアニメ、歌などの著作権について調べておく	JASRACについてしらべる	10	必要書類の書き方(1) コンサートホールの申し込みの手順など	熊本県立劇場の使用許可申請書をダウンロードしておく	使用許可申請書の記入 使用料の概算を出す			
3	楽譜のコピーは許されるのか CARS	CARSのホームページを見て概要をつかんでおく	楽譜コピーについての意見をまとめる	11	必要書類の書き方(2) JASRAC提出書類、名義後援依頼等	演奏利用申込書、演奏利用明細書をダウンロード	書類の完成 使用料の概算を出す			
4	著作権の制限 著作物の私的使用、学校現場での著作権	JASRACのホームページを見て概要をつかんでおく	学園祭で演奏する場合の著作権料について調べる	12	アートマネージメントの視点からの「華麗なる音楽の祭典」(1)(出演者として)	内容、進行思い出しして記録	「華麗なる音楽の祭典」の進行			
授業の概要										
音楽そのものではなく、音楽をめぐる周辺の学修を行う。 ・著作権について知る。 ・コンサートを支えるアートマネージメントの実務を体験する。 ・申請書等をダウンロードし記入するなどのコンピュータ・リテラシーも養うために、エクセル、ワード、PDFへの記入等を経験する。 ・インターネットで検索する。	5	同一性保持権 大地讃頌、おふくろさん	事件の概要を調べておく	事件の問題点をまとめる	13	アートマネージメントの視点からの「華麗なる音楽の祭典」(2)担当者表、進行表	「華麗なる音楽の祭典」の資料収集	舞台制作について考える		
	6	日本と海外 パブリックドメイン Youtube等	著作権が切れたらどうなるかを調べる	ネット上で著作権をまとめる	14	コンサートの企画・運営について	コンサート運営上の必要事項を確認、リストアップ	コンサート運営上の必要事項についてまとめる		
	7	違法ダウンロード 罰則(改正著作権法)	何が禁止されているかを調べる	日常生活で著作権に関する事を見直す	15	アートマネージメントの意義 後期で扱った内容の復習 アートマネージメントの社会的役割	アートマネージメントのまとめ	アートマネージメントの社会的役割をまとめる		
	8	舞台専門用語について	舞台専門用語を調べる	舞台専門用語についてまとめる	備考	※サウンドデザインコース必修 ※ミュージックパフォーマンスコース必修				
教科書・テキスト等	担当教員が配付、指示する		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等	図書館の関係蔵書			課題/レポート	80%	課題を授業中にまとめる(クラウドで保存)				
				平常点	20%	インターネットの検索と発表等				

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ノーテーション (楽譜浄書)	出田 敬三・脇山 純 他	複数	2単位	音楽学科 2年次	後期	※				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
市販の楽譜やオリジナル作品を楽譜として入力できる力をつける。紙の楽譜ではできない編曲への応用ができるようになる。試験曲の楽譜提出に役立てる移調楽器でパート譜を作成できるようにする。楽譜を書くだけでなく、自分の音楽能力を伸ばすためのツールとして利用（聴音問題の作成、和声の音と音符での確認等）ができるようになる。楽譜としてのデータを多くの音楽アプリケーションで利用できるようになることを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	ノーテーションとは MuseScoreでマウスによる音符の入力 調号、音部記号、拍子記号	シラバスを読んでおく	PCにインストールして課題に取り組む	9	2声のドラム譜 ドラム特有の符頭		バンド譜などでドラムパートのある楽譜の準備	授業での入力の復習	
	2	前回の復習 MIDIキーボードからの音符の入力 装飾音符	簡単なピアノ譜を準備	課題の復習	10	ギターについて TAB譜面		バンド譜などでギターパートのある楽譜の準備	授業での入力の復習	
	3	前回の復習 パソコンのキーボードからの音符の入力	ピアノ譜作成に取り組む	課題の復習	11	オーケストラスコア 移調楽器の説明 木管楽器、金管楽器 各国の楽器名について		オーケストラスコアの準備	レイアウトを意識した楽譜の作成	
	4	ラインの入力 スラー、クレッシェンド ペダル等	音符以外の情報を書き込む	課題の復習	12	楽譜の見た目 (レイアウト) 別のアプリケーションでデータを共有 (WAVE, MIDI, PDFで保存)		見た目のきれいな楽譜に編集	課題の復習	
授業の概要										
音楽の記録として長年使用されてきた共通言語の「楽譜」をパソコンを使用し、きれいに正確に書いて、印刷する。様々な楽器、音楽スタイルに合わせた楽譜を作成する。	5	テキストの入力 タイトル、作詞、作曲 歌詞、コードネーム	歌詞、コードネーム入りの楽譜の準備	課題の復習	13	Sibelius MuseScoreに似た有料アプリケーション、さらに便利な機能		違うアプリケーションに慣れる	課題の復習	
	6	ピアノ大譜表 持ってきたピアノ譜の入力	入力のためのピアノ譜面の準備	課題の復習	14	前回の復習 MIDIキーボードからの音符の入力 装飾音符		違うアプリケーションに慣れる	課題の復習	
	7	ピアノ譜独特の記譜 譜表をまたぐ音符等	ピアノ譜に取り組む	課題の復習	15	Finale UI (ユーザーインターフェイス) の異なるアプリケーション		違うアプリケーションに慣れる	課題の仕上げ、提出	
	8	2声、3声	2声、3声のピアノ譜を準備	課題の復習	備考 ※サウンドデザインコース必修 ※ミュージックパフォーマンスコース必修					
教科書・テキスト等	ノーテーションソフトのマニュアル、担当教員が配付			成績 評価 基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
					課題楽譜提出	80%	課題曲、自由曲の楽譜			
					課題/楽譜	10%	課題を習得・練習			
参考書・参考資料等					平常点 (態度) 演奏活動	10%	授業中の指示に対する正しい操作、質問など			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
メディアデザイン I	浅川 浩二	単独	2単位	音楽学科 2年次	前期	※				A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
インターネットの台頭と共にその表現のメソッドが広がり、単純に演奏力だけでは、十分な訴求力をもった活動が難しい時代となりました。ネットメディアは全ての表現者にとって先ず基礎的知識として習得すべきものになったとも言え、これらの知識を体験を通じて習得することを目的とします。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	インターネット・プロモーションの現在 ネット上のアーティストのプロモーション例	ネットによるアーティストサイト閲覧	事例等確認	9	My Space等SNSへの登録 My Space等音楽SNSの運用		My Spaceの確認	設置サイトの確認と修正	
	2	インターネット・プロモーションの現在 ネット上のアーティストのプロモーション例	ミュージシャンサイトの閲覧と要点の把握	ミュージシャンサイトの再確認	10	音響特性について 音響上の特性等講義		ウェブ上で扱う音楽ファイルフォーマットについて	サウンドエディットソフトによる確認	
	3	バーチャル・ミュージシャン 各自のコンセプトに基づいた仮想アーティスト	コンセプトの構成を練る	コンセプトの再確認と修正	11	オリジナルホームページ作成 1 Wixを利用したオリジナルウェブの制作		Wixの仕様の確認	仕様の確認と修正	
	4	ロゴマーク作成 グラフィックソフトによる制作	ミュージシャンのロゴなどの確認	グラフィックソフトの使い方の復習	12	オリジナルホームページ作成 2 Wixを利用したオリジナルウェブの制作		制作サイトの管理確認	サイト内容における確認と修正	
授業の概要										
インターネットを総合的表現媒体として捉え、セルフプロモート能力の向上を目指し、SNS、ウェブサイト、クラウド技術などを習得し、マルチメディア表現力の向上を図る。	5	バナー制作 グラフィックソフトによる制作	グラフィックソフトの利用法の確認	グラフィックソフトの使い方の復習	13	ウェブパブリッシングの実情と実践 1 ウェブプロモーションの実体講義		ネット上のプロモーション確認	実践後の確認	
	6	ブログ制作1 ブログ設置及び運用	ミュージシャンブログの閲覧	ブログの管理などの復習	14	ウェブパブリッシングの実情と実践 2 ウェブプロモーションの実体講義		ネット上のプロモーション確認	実践後の修正	
	7	ブログ制作2 ブログ設置及び運用	修正点などのアイデアの確認	ブログ内容の修正	15	全体のまとめと修正		既習内容の確認	既習内容の実践	
	8	Facebookプロモーション FBの仕組みと設置等	Facebookサイトの確認	設置サイトの確認と修正	備考 ※サウンドデザインコース必修					
教科書・テキスト等	はじめてのビデオ編集 : Windows7 & ムービー、メーカー対応版 [単行本]			成績 評価 基準	評価方法	割合 (%)	評価のポイント			
					課題/レポート	50%	制作レポート ブログ及びロゴ等制作物			
					平常点	30%	課題提出 出席率及び授業態度			
参考書・参考資料等					期末試験	20%	制作物ウェブ・サイト等最終制作物提出			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
メディアデザインⅡ	浅川 浩二	単独	2単位	音楽学科 2年次	後期	※				A B D E
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
現代のクリエイターにとって音楽と映像は切っても切れないコンテンツとなりつつある。これは表現媒体の違いではあるが音楽家という枠を越えてクリエイターとしての表現力をつけるために必須のテーマとして捉えることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	映像制作の基礎知識1 映画等作品における監督の役割など	映画等作品鑑賞時コマ割りなどを意識する	映像におけるコンセプトなどの確認	9	写真加工の基礎と実践2 写真加工実践	写真加工サイトのリサーチ及び登録	加工サイトにおける実験		
	2	映像制作の基礎知識2 プロモーションビデオなど制作過程	映像のコンセプトなどを意識して鑑賞	多種多様なプロモビデオの鑑賞	10	動画撮影の基礎知識 動画撮影時における基礎知識	動画カメラについての予習	動画カメラの要点の復習		
	3	映像制作における撮影技術の基礎知識1 映像用カメラの説明と使用	カメラの基礎的知識の予習	スマートホンでの撮影などへの応用	11	動画撮影の実践1 動画撮影	動画撮影の基礎知識の予習	所有カメラでの実験等		
	4	映像制作における撮影技術の基礎知識2 撮影時レイアウトや露出などの講義	カメラの機能の予習	スマートホン等での実践実験	12	動画撮影の実践2 動画撮影	ビデオカメラについての知識の修練	所有カメラでの実験等		
	5	Youtube登録実験 ムービー登録作業	Youtubeアカウントの作成等	アカウントの確認	13	動画編集1 動画編集の基礎的演習	編集ソフトに関する予習	所有ソフト等での実験		
	6	写真撮影の基礎と実践1 写真の基礎的知識の講義	デジタルカメラの基礎的知識の予習	所有カメラでの実験等	14	動画編集2 動画編集	用語関連の予習	所有ソフト等での実験		
	7	写真撮影の基礎と実践2 写真のフレーミングや露出関連講義	フレーミングなどの予習	所有カメラでの実験等	15	まとめ 全体のまとめと修正	既習内容の確認	既習内容の実践		
授業の概要	8	写真加工の基礎と実践1 写真と映像の加工についての講義	写真加工サイトのリサーチ	加工サイトにおける実験	備考 ※サウンドデザインコース必修					
サイバリングのPowerDirector を利用し、動画制作の基礎から 応用までを演習する。 映像はその特性から音、画像、 動画など様々なメディアを駆使 した総合芸術と捉えることが 出来る反面、履修すべき課題は 多い。このため各自の自主的演習 の時間を作ることが必要となる。										
教科書・テキスト等	はじめてのビデオ編集：Windows7 & ムービー、メーカー 対応版 [単行本]	成 績 評 価 基 準	評価方法		割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等			課題/レポート	50%	制作レポート プログ及びロゴ等制作物	平常点	30%	課題提出 出席率及び授業態度	期末試験	20%